

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(2月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2026年1月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2026年1月) 3
- ◆中国工作機械貿易統計(2025年) 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 52.7%(3月) 9
- ◆中国製造業 PMI 50.4%(3月) 10
- ◆海外業界ニュース：ラテンアメリカ 10
- ◆海外業界動向：中国 12
- ◆米国通商動向：
米国・メキシコ・カナダ協定の共同見直し 13
EU・米国ターンベリー貿易枠組み 14
日米首脳会談 15
- ◆欧州通商政策情報：
EUが、EU米貿易協定で定めた約束を
今後も履行するよう要求 16
欧州委員会が「産業加速法」を提案 17
2026年1月・2月の中国の対EU輸出が28%増加、
欧州委員会は迂回監視を継続 17

3. 工作機械関連企業動向

- ◆SNTグループ、ロボット・工作機械事業の再編
SNTモータティブが「コントロールタワー」 18
- ◆Mikron、営業利益率を10.3%に引き上げ 18
- ◆ベアリング大手SKF、台湾G-Techを
買収状態監視技術を強化 20

4. 展示会情報

- ◆台湾、TMTS 2026でAI主導のデジタル化と
グリーン化を推進 21
- ◆IMTEX2027 日本パビリオン出展募集 23

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 25

6. 日工外需状況(3月) 35

お知らせ

- BharatMobility2027 37

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(2月)

米国製造技術工業協会(AMT)が発表した「米国製造技術受注レポート」によると、金属加工機械の新規受注額は2026年2月に4億8,890万ドルに達した。製造技術受注額は、2026年1月比で10.7%、2025年2月比で27.4%増加した。2026年2月までの受注総額は9億3,050万ドルに達し、2025年最初の2か月間を26%上回った。製造技術の需要は、約3年連続の減少の後、2024年第4四半期に回復局面に入った。しかし、受注額は増加したものの、受注台数の増加ペースははるかに緩やかだった。金額と数量の動向の乖離は2026年も続き、受注総数は2025年の最初の2か月と比べてほぼ横ばいとなる見込みである。この乖離は、一般的に自動化への需要増加、顧客産業の変化、そして連邦政府の政策や地政学的混乱による市場の歪みが原因と考えられる。

ここ数ヶ月、企業が不確実性の高まりと行動を起こさないことのコスト増大への対応策を模索するにつれ、製造技術への需要が増加した。政策の変動にもかかわらず、こうした自信に満ちた投資は2026年の最初の2ヶ月間も続いた。しかし、2月下旬にイランで戦争が勃発したことで、企業がこの高い投資ペースを維持できるかどうかは不透明だ。一方では、軍事費の増加が既に生産能力の制約に苦しんでいる航空宇宙・防衛産業に流れ込むことになるだろうが、関税環境のさらなる変化によって追加投資が停滞する可能性もある。

(USMTOレポート 2026年4月13日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2025年 2月	1,657	377,841	17	5,763
3月	1,891	505,403	17	12,481
4月	1,756	438,232	16	5,895
5月	1,503	382,506	21	11,218
6月	1,593	421,399	16	D
7月	1,576	387,377	8	D
8月	1,843	530,028	18	4,512
9月	1,794	481,733	28	12,428
10月	2,007	544,323	18	4,961
11月	1,643	432,440	20	3,729
12月	2,574	806,176	20	7,938
2026年 1月	1,469	430,398	18	11,280
2月	1,691	483,014	21	5,833
平均	1,769	478,528	18	7,822

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年2月 (P)	2026年1月 (R)	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
北東部	65.7	53.5	22.8	76.8	-14.4	119.3	126.2	-5.5
南東部	59.1	55.1	7.1	57.8	2.3	114.2	96.2	18.7
北中東部	96.4	97.1	-0.7	72.9	32.2	193.5	165.8	16.7
北中西部	76.5	87.0	-12.0	56.4	35.8	163.5	116.2	40.7
南中部	53.1	33.7	57.6	41.6	27.6	86.9	69.5	25.0
西部	138.0	115.2	19.7	78.1	76.7	253.2	164.6	53.8

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2026年1月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1～12月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2025.1	2026.1	前年比(%)	2025.1	2026.1	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	7,283	12,881	76.9	11,775	27,509	133.6
マシニングセンタ	40,729	37,687	-7.5	31,598	4,455	-85.9
旋盤	28,478	29,105	2.2	5,623	4,746	-15.6
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	9,523	9,813	3.0	312	451	44.6
研削盤	8,580	19,009	121.6	2,904	4,460	53.6
歯切り盤・歯車機械	7,083	8,497	20.0	1,965	1,910	-2.8
切 削 型 合 計	101,676	116,992	15.1	54,177	43,531	-19.7

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2025.1	2026.1	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2025.1	2026.1	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	31,945	44,848	28.8	40.4	1	日 本	9,416	26,633	53.2	182.8
2	米 国	20,982	23,481	15.1	11.9	2	中 国	9,422	14,107	28.2	49.7
3	ベトナム	3,438	12,239	7.9	256.0	3	ス イ ス	748	2,152	4.3	187.7
4	イ ン ド	11,624	10,120	6.5	-12.9	4	タ イ	2,160	1,815	3.6	-16.0
5	トルコ	8,450	6,695	4.3	-20.8	5	韓 国	1,086	1,692	3.4	55.8
6	タ イ	8,955	6,314	4.1	-29.5	6	ド イ ツ	4,134	1,166	2.3	-71.8
7	ド イ ツ	1,941	4,771	3.1	145.8	7	フ ラ ン ス	-	939	1.9	0.0
8	オランダ	2,457	4,007	2.6	63.1	8	チ ェ コ	-	589	1.2	0.0
9	日 本	6,070	3,591	2.3	-40.8	9	オーストリア	-	352	0.7	0.0
10	マレーシア	2,896	3,568	2.3	23.2	10	台 湾	292	294	0.6	0.7
11	韓 国	536	3,113	2.0	480.8		そ の 他	46,478	309	0.6	-99.3
12	イタリヤ	2,290	3,089	2.0	34.9						
13	英 国	1,884	2,765	1.8	46.8						
14	インドネシア	5,016	2,120	1.4	-57.7						
15	オーストラリア	1,292	2,030	1.3	57.1						
16	スペイン	1,091	2,003	1.3	83.6						
17	イスラエル	104	1,858	1.2	1,686.5						
18	フランス	679	1,793	1.2	164.1						
19	メキシコ	2,619	1,697	1.1	-35.2						
20	ポーランド	1,200	1,604	1.0	33.7						
21	ブラジル	4,439	1,398	0.9	-68.5						
22	アラブ首長国	178	1,147	0.7	544.4						
23	カナダ	2,425	1,104	0.7	-54.5						
24	ベルギー	836	1,032	0.7	23.4						
25	サウジアラビア	75	806	0.5	974.7						
26	南アフリカ	491	738	0.5	50.3						
27	ギリシャ	706	658	0.4	-6.8						
28	ポルトガル	121	631	0.4	421.5						
29	シンガポール	556	617	0.4	11.0						
30	フィリピン	620	580	0.4	-6.5						
	そ の 他	8,474	5,125	3.3	-39.5						
	合 計	134,390	155,542	100.0	15.7		合 計	76,736	50,048	100.0	-34.8

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年1月)

韓国工作機械受注(2026年1月)

○業種別受注(2026.1)

(単位：百万ウォン)

需要業種	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	825	1,155	40.0	3,630	1,155	-68.2
金属製品	65	0	-	123	0	-
一般機械	18,335	22,996	25.4	15,736	22,996	46.1
電気機械	4,874	4,567	-6.3	6,295	4,567	-27.5
自動車	12,290	63,278	414.9	36,581	63,278	73.0
造船・輸送用機械	2,753	2,370	-13.9	2,836	2,370	-16.4
精密機械	7,886	2,543	-67.8	4,261	2,543	-40.3
その他製造業	2,669	3,377	26.5	1,909	3,377	76.9
官公需・学校	300	0	-	830	0	-
商社・代理店	14,898	5,486	-63.2	5,264	5,486	4.2
その他	0	0	-	0	0	-
内 需 合 計	64,895	105,772	63.0	77,465	105,772	36.5
外 需	213,083	180,274	-15.4	156,493	180,274	15.2
総 合 計	277,978	286,046	2.9	233,958	286,046	22.3

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.1)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
N C 小 合 計	275,629	283,041	2.7	229,779	283,041	23.2
NC旋盤	143,827	140,688	-2.2	103,214	140,688	36.3
マシニングセンタ	87,595	82,780	-5.5	84,819	82,780	-2.4
NCフライス盤	0	240	-	0	240	-
NC専用機	12,415	50,139	303.9	23,983	50,139	109.1
NC中ぐり盤	8,774	3,035	-65.4	9,490	3,035	-68.0
NCその他の工作機械	15,370	4,377	-71.5	5,840	4,377	-25.1
非 N C 小 合 計	1,316	1,287	-2.2	2,389	1,287	-46.1
旋盤	540	498	-7.8	1,021	498	-51.2
フライス盤	290	227	-21.7	593	227	-61.7
ボール盤	38	0	-	0	0	-
研削盤	448	562	25.4	775	562	-27.5
専用機	0	0	-	0	0	-
その他の工作機械	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型	276,945	284,328	2.7	232,168	284,328	22.5
金 属 成 形 型	1,033	1,718	66.3	1,790	1,718	-4.0
総 合 計	277,978	286,046	2.9	233,958	286,046	22.3

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2026年1月)

○生産(2026年1月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
N C 小 合 計	162,332	150,177	-7.5	124,052	150,177	21.1
NC旋盤	75,509	68,025	-9.9	66,018	68,025	3.0
マシニングセンタ	54,345	48,128	-11.4	31,704	48,128	51.8
NCフライス盤	381	0	-	0	0	-
NC専用機	16,311	22,527	38.1	18,055	22,527	24.8
NC中ぐり盤	4,052	3,759	-7.2	2,790	3,759	34.7
NCその他	7,789	7,087	-9.0	3,188	7,087	122.3
非 N C 小 合 計	1,350	1,508	11.7	1,924	1,508	-21.6
旋盤	0	0	-	144	0	-
フライス盤	623	623	80.6	652	1,125	72.5
ボール盤	311	311	-	208	0	-
研削盤	326	326	17.5	530	383	-27.7
専用機	0	0	-	390	0	-
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	163,682	163,682	-7.3	125,976	151,685	20.4
金 属 成 形 型 合 計	14,265	14,265	18.5	16,907	16,909	0.0
総 合 計	177,947	177,947	-5.3	142,883	168,594	18.0

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.1)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
N C 小 合 計	310,797	186,056	-40.1	133,738	186,056	39.1
NC旋盤	156,487	90,563	-42.1	72,584	90,563	24.8
マシニングセンタ	110,114	66,144	-39.9	31,287	66,144	111.4
NCフライス盤	381	0	-	0	0	-
NC専用機	16,311	22,527	38.1	18,055	22,527	24.8
NC中ぐり盤	5,763	1,962	-66.0	5,822	1,962	-66.3
NCその他	17,796	4,209	-76.3	3,693	4,209	14.0
非 N C 小 合 計	2,267	2,182	-3.7	3,057	2,182	-28.6
旋盤	846	577	-31.8	1,121	577	-48.5
フライス盤	656	1,156	76.2	682	1,156	69.5
ボール盤	349	0	-	334	0	-
研削盤	326	449	37.7	530	449	-15.3
専用機	90	0	-	390	0	-
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	313,064	188,238	-39.9	136,795	188,238	37.6
金 属 成 形 型 合 計	1,297	895	-31.0	1,513	895	-40.8
総 合 計	314,361	189,133	-39.8	138,308	189,133	36.7

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械輸出統計(2026年1月)

○機種別輸出(2026.1)

(単位：千USドル)

機種別	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
N C 小 合 計	176,158	131,534	-25.3	114,109	131,534	15.3
NC旋盤	87,073	56,764	-34.8	53,058	56,764	7.0
マシニングセンタ	49,985	35,484	-29.0	42,049	35,484	-15.6
NCフライス盤	621	449	-27.7	1,070	449	-58.1
NC専用機	926	0	-	3	0	-
NC中ぐり盤	2,768	2,104	-24.0	3,125	2,104	-32.7
レーザ加工機	27,744	31,963	15.2	11,106	31,963	187.8
NCその他	3,699	2,500	-32.4	1,423	2,500	75.7
非 N C 小 合 計	9,144	6,166	-32.6	4,855	6,166	27.0
旋盤	1,876	757	-59.6	117	757	545.8
フライス盤	712	985	38.4	1,142	985	-13.7
ボール盤	412	349	-15.2	486	349	-28.2
研削盤	1,321	439	-66.8	345	439	27.2
専用機	44	0	-99.6	0	0	254.3
その他	2,702	2,075	-23.2	1,976	2,075	5.0
金 属 切 削 型 合 計	185,302	137,700	-25.7	118,964	137,700	15.7
金 属 成 形 型 合 計	67,302	27,102	-59.7	38,649	27,102	-29.9
総 合 計	252,603	164,802	-34.8	157,613	164,802	4.6

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-1)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	48,658	25,974	6,476	38,548	33,519	16,602	10,985
NC旋盤	10,326	3,830	4,111	19,501	23,785	11,935	8,094
マシニングセンタ	10,294	4,864	1,899	10,817	8,813	4,503	2,219
NCフライス盤	296	0	6	108	0	0	0
NC専用機	0	0	0	0	0	0	0
NC中ぐり盤	10	0	10	756	0	0	0
レーザ加工機	26,035	16,589	0	5,723	127	21	101
NCその他	393	12	0	1,116	681	144	533
非NC小合計	4,099	1,570	834	1,021	608	287	0
旋盤	497	89	146	187	0	0	0
フライス盤	585	453	32	351	22	16	0
ボール盤	342	149	3	0	6	0	0
研削盤	360	97	137	74	4	0	0
専用機	0	0	0	0	0	0	0
その他	918	582	106	338	526	226	0
金 属 切 削 型 合 計	52,757	27,544	7,310	39,569	34,127	16,889	10,985
金 属 成 形 型 合 計	18,642	1,215	11,459	3,121	4,138	172	3,162
総 合 計	71,399	28,760	18,769	42,690	38,265	17,061	14,147

出所：韓国通関局

韓国工作機械輸入統計(2026年1月)

○機種別輸入(2026.1)

(単位：千USドル)

機 種 別	2025.12	2026.1	前月比(%)	2025.1-1	2026.1-1	前年同期比(%)
N C 小 合 計	64,025	49,199	-23.2	36,467	49,199	34.9
NC旋盤	9,307	3,869	-58.4	3,047	3,869	27.0
マシニングセンタ	19,582	11,030	-43.7	7,883	11,030	39.9
NCフライス盤	4,411	4,938	11.9	52	4,938	9,396.2
NC専用機	208	2,304	1,007.7	0	2,304	-
NC中ぐり盤	104	2,107	1,926.0	353	2,107	497.5
レーザ加工機	14,931	18,129	21.4	17,154	18,129	5.7
NCその他	1,750	709	-59.5	232	709	206.3
非 N C 小 合 計	6,945	5,883	-15.3	5,074	5,883	15.9
旋盤	859	627	-27.0	758	627	-17.3
フライス盤	143	1,232	762.1	291	1,232	322.7
ボール盤	234	258	10.0	314	258	-17.8
研削盤	2,015	568	-71.8	977	568	-41.9
専用機	0	0	-	2	0	-88.5
その他	2,508	1,995	-20.4	596	1,995	234.9
金 属 切 削 型 合 計	70,970	55,082	-22.4	41,541	55,082	32.6
金 属 成 形 型 合 計	22,903	11,855	-48.2	17,277	11,855	-31.4
総 合 計	93,873	66,837	-28.7	58,817	66,937	13.8

出所：韓国通関局

○輸入国別(2026.1-1)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	35,306	10,699	2,285	426	13,218	3,798	2,487
NC旋盤	3,578	1,448	0	46	244	0	0
マシニングセンタ	8,328	6,026	1,898	0	2,702	2,241	350
NCフライス盤	147	0	0	0	4,791	0	0
NC専用機	904	699	0	0	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	6	0	0	0	2,101	0	2,101
レーザ加工機	17,909	1,619	0	30	184	62	33
NCその他	280	29	0	332	97	94	3
非 N C 小 合 計	3,048	800	86	1,226	1,609	1,265	152
旋盤	596	272	0	0	32	32	0
フライス盤	64	4	0	1,054	114	29	0
ボール盤	237	2	3	3	19	2	0
研削盤	563	318	0	2	2	0	1
専用機	0	0	0	0	0	0	0
その他	800	26	12	0	1,195	1,189	0
金 属 切 削 型	38,354	11,499	2,371	1,652	14,827	5,063	2,639
金 属 成 形 型	5,937	961	505	72	5,846	915	4,304
総 合 計	44,291	12,461	2,875	1,724	20,673	5,978	6,942

出所：韓国通関局

◆中国工作機械貿易統計(2025年)

1) 中国工作機械国別輸入2025年

(金額単位：千USドル)

	合計				うちNC			
	台数	前年比%	金額	前年比%	台数	前年比%	金額	前年比%
金属加工工作機械合計	7,056,795	-18.46	9,675,884	17.91	784,080	10.91	6,210,693	20.39
切削型工作機械小計	6,020,229	-20.7	6,248,798	11.52	736,964	9.62	4,623,447	14.94
特殊加工機	985,102	-0.96	2,629,171	12.80	674,862	8.33	2,462,423	15.65
マシニングセンタ	20,253	40.32	987,815	21.52	20,253	40.32	987,815	21.52
複合加工機	3,954	-52.61	67,398	25.88				
旋盤	94,891	-3.52	792,415	-2.71	19,516	7.02	588,980	-0.48
ボール盤	717,640	-1.33	201,602	4.74	1,929	12.15	68,849	18.8
中ぐり盤	6,169	17.39	143,363	41.01	1,459	42.34	105,137	37.63
フライス盤	62,462	-12.79	247,859	3.72	13,062	46.24	124,782	17.27
ねじ立て盤	78,714	16.55	43,008	6.49				
研削盤	2,116,464	-40.13	606,774	16.21	5,006	18.18	192,108	15.32
平削り盤、フローチ盤、立て削り盤	1,263	12.27	15,894	11.59				
歯車機械	11,635	26.21	112,452	21.92	877	17.88	93,354	14.91
のこ盤	1,851,383	-6.69	333,032	0.53				
その他	70,299	-6.12	68,015	16.88				
その他研磨機	2,515,743	-23.18	374,781	10.75				
成形型工作機械小計	1,036,566	-2.47	3,427,086	31.65	47,116	36.06	1,587,246	39.67

出所：CMTBA

2) 中国工作機械輸入統計(2025年)

(単位：千USドル)

	合計				うちNC			
	台数	前年比%	金額	前年比%	台数	前年比%	金額	前年比%
金属加工工作機械合計	48,233	3.35	5,389,113	-1.72	30,262	2.93	4,770,938	-0.12
切削型工作機械小計	42,168	4.27	4,774,285	-0.99	28,960	3.03	4,482,286	0.77
特殊加工機	10,576	12.00	1,068,346	28.33	9,193	15.77	992,330	35.00
マシニングセンタ	13,398	6.56	1,829,268	-2.64	13,398	6.56	1,829,268	-2.64
複合加工機	86	34.38	47,439	29.41				
旋盤	5,721	-0.71	402,594	-19.83	3,187	-20.66	380,223	-20.25
ボール盤	946	24.15	12,185	-24.19	112	23.08	11,245	-24.72
中ぐり盤	118	19.19	62,606	48.86	99	16.47	61,432	47.48
フライス盤	337	-35.93	66,469	38.61	183	-36.24	60,493	42.90
ねじ立て盤	89	4.71	3,042	100.72				
研削盤	6,905	15.56	702,468	-17.45	2,035	-15.53	600,971	-16.04
平削り盤、フローチ盤、立て削り盤	139	127.87	5,684	-81.44				
歯車機械	788	3.28	547,285	0.53	753	6.96	546,324	0.71
のこ盤	2,930	-16.74	24,377	-26.6				
その他	135	-83.29	2,522	-50.73				
その他研磨機	3,071	40.29	18,910	-8.15				
成形型工作機械小計	6,065	-2.65	614,828	-7.02	1,302	0.70	288,652	-12.21

出所：CMTBA

中国工作機械国別輸出入統計(2025年)

1) 中国工作機械国別輸入2025年

(金額単位：百万ドル)

	国名	金属加工工作機械			金属切削型工作機械			金属成形型工作機械		
		金額	前年比%	割合%	金額	前年比%	割合%	金額	前年比%	割合%
	合計	5,389	-1.7	100.0	4,774	-1.0	100	615	-7.0	100
1	日本	2,263	22.7	42.0	2,117	24.6	44.3	145	1.1	23.6
2	ドイツ	1,210	-5.5	22.4	1,065	-4.4	22.3	144	-12.5	23.5
3	台湾	513	-14.9	9.5	435	-17.1	9.1	78	-0.4	12.7
4	スイス	334	-23.1	6.2	308	-17.6	6.5	26	-57.4	4.2
5	韓国	182	-10.7	3.4	129	-22.0	2.7	53	38.8	8.6
6	シンガポール	174	52.9	3.2	174	52.8	3.7	0.1	230.2	0.0
7	イタリア	153	-48.0	2.8	112	-48.9	2.4	41	-45.3	6.6
8	オーストリア	95	26.6	1.8	57	19.4	1.2	38	39.1	6.1
9	スペイン	74	-48.3	1.4	61	-54.4	1.3	13	42.2	2.1
10	米国	69	-28.2	1.3	48	-33.9	1.0	20	-9.4	3.3
11	チェコ	66	-10.3	1.2	65	-10.4	1.4	0.6	3.5	0.1
12	タイ	53	-28.8	1.0	53	-28.8	1.1	0.1	-34.2	0.0
13	中国	39	35.8	0.7	26	23.0	0.6	13	72.9	2.1
14	フランス	37	-20.1	0.7	39	60.4	0.8	7.4	-51.4	1.1
15	英国	24	-32.1	0.4	22	-24.5	0.5	1.8	-70.2	0.3
	その他	104		1.9	67		1.4	37		6.1

出所：CMTBA

2) 中国工作機械国別輸出2025年

(金額単位：百万ドル)

	国名	金属加工工作機械			金属切削型工作機械			金属成型型工作機械		
		金額	前年比%	割合%	金額	前年比%	割合%	金額	前年比%	割合%
	合計	9,676	17.9	100.0	6,249	11.5	100.0	3,427	31.7	100.0
1	ベトナム	1,156	57.3	11.9	759	54.0	12.1	397	64.1	11.6
2	ロシア	914	-6.4	9.5	612	-14.6	9.8	303	15.9	8.8
3	インド	826	18.1	8.5	368	8.2	5.9	458	27.4	13.4
4	タイ	635	79.0	6.6	411	85.0	6.6	225	68.8	6.6
5	米国	532	-9.3	5.5	420	-11.2	6.7	113	-1.4	3.3
6	ブラジル	375	24.1	3.9	249	9.7	4.0	126	67.7	3.7
7	トルコ	356	6.0	3.7	236	1.2	3.8	120	16.9	3.5
8	メキシコ	333	-10.5	3.4	205	-15.1	3.3	127	-2.1	3.7
9	インドネシア	318	35.9	3.3	159	17.8	2.6	159	60.7	4.6
10	マレーシア	295	31.7	3.1	169	14.2	2.7	126	65.9	3.7
11	韓国	264	0.4	2.7	198	-5.1	3.2	66	21.9	1.9
12	ドイツ	255	16.1	2.6	206	6.6	3.3	49	86.9	1.4
13	アラブ首長国	183	18.6	1.9	107	9.9	1.7	76	33.5	2.2
14	日本	156	-9.9	1.6	121	-14.3	1.9	35	9.5	1.0
15	ベラルーシ	149	-5.1	1.5	128	-2.5	2.0	21	-18.5	0.6
	その他	2,927		30.3	1,902	-132.3	30.4	1,026		29.9

出所：CMTBA

2. 主要国・地域経済動向

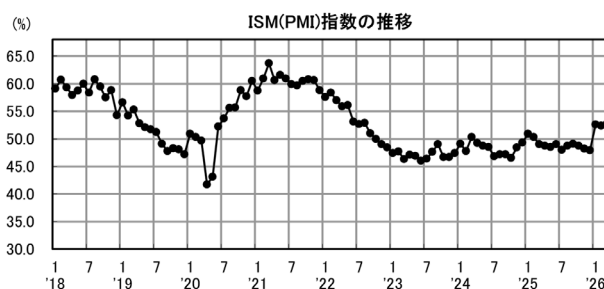
◆米国：PMI 52.7%（3月）

製造業PMI®は3月に52.7%を記録し、2月の52.4%から0.3ポイント上昇した。経済全体は17ヶ月連続で拡大を続けている。（製造業PMI®が一定期間にわたって47.5%を超えると、一般的に経済全体の拡大を示す。）新規受注指数は、4ヶ月連続で縮小した後、3ヶ月連続で拡大し、53.5%を記録した。これは2月の55.8%から2.3ポイント低下している。3月の生産指数(55.1%)は、2月の53.5%より1.6ポイント高くなっている。物価指数は拡大(または「上昇」)領域を維持し、78.3%を記録した。これは2月の70.5%から7.8ポイント上昇している。過去2ヶ月間で、物価指数は19.3ポイント上昇し、過去最高水準に達した。2022年6月の受注残高指数は78.5%でした。受注残高指数は54.4%で、2月の56.6%から2.2ポイント低下した。雇用指数は48.7%で、2月の48.7%から0.1ポイント低下した。

製造業経済を見ると、3月の同部門の国内総生産(GDP)は16%縮小し、2月の21%から縮小幅が縮小した。また、製造業GDPのうち、大幅な縮小(総合PMI®が45%以下と定義)の割合は、2月の1%から4%に増加した。PMI®が45%以下の部門GDPの割合は、製造業全体の弱さを測る良い指標である。6大製造業のうち4業種(輸送機器、コンピュータ・電子製品、機械、化学製品)は3月に拡大した。

3月に成長を報告した13の製造業は、順に印刷・関連支援活動、一次金属、輸送機器、その他製造業、電気機器・器具・部品、繊維工場、コンピュータ・電子製品、金属加工品、機械、紙製品、非金属鉱物製品、木材製品、化学製品。

ISMが発表した3月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。



項目	2026年3月指数(%)	2026年2月指数(%)	備考
ISM指数(PMI)	52.7	52.4	前月比0.3ポイント増。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新規受注	53.5	55.8	前月比2.3ポイント減。拡大の基準は52.1である。11業種が増加を報告した。
生産	55.1	53.5	前月比1.6ポイント増。拡大の基準は、52である。10業種が増加を報告。
雇用	48.7	48.8	前月比0.1ポイント減。7業種が増加を報告した。
入荷遅延	58.9	55.1	前月比3.8ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中13業種が長期化を報告した。
在庫	47.1	48.8	前月比1.7ポイント減。拡大の基準44.5ポイントを上回った。4業種が在庫増を報告した。
顧客在庫	40.1	38.8	前月比1.3ポイント増。2業種が増加を報告した。
仕入れ価格	78.3	70.5	前月比7.8ポイント増。17業種が増加を報告した。
受注残	54.4	56.6	前月比2.2ポイント減。10業種が増加を報告した。
輸出受注	49.9	50.3	前月比0.4ポイント減。4業種が増加を報告した。
原材料輸入	52.6	54.9	前月比2.3ポイント減。9業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年4月1日付)

◆中国製造業 PMI 50.4% (3月)

3月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.4%となり、前月比1.4ポイント上昇し、基準値を上回った。これは製造業の景気回復を示している。

企業規模別に見ると、大企業のPMIは51.6%で、前月比0.1ポイント上昇し、基準値を上回った。一方、中規模企業と小規模企業のPMIはそれぞれ49.0%と49.3%で、前月比1.5ポイント上昇、4.5ポイント上昇したが、いずれも基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数と新規受注指数はともに基準値を上回ったが、原材料在庫指数、雇用指数、仕入先納期指数はいずれも基準値を下回った。

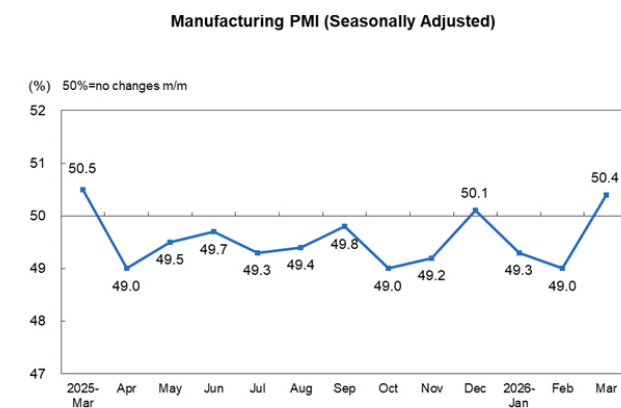
生産指数は51.4%で、前月比1.8ポイント上昇し、製造業における生産活動の加速を示した。

新規受注指数は51.6%で、前月比3.0ポイント上昇し、製造業の市場需要環境の著しい改善を示した。

原材料在庫指数は47.7%で、前月比0.2ポイント上昇し、製造業における主要原材料在庫の減少幅が縮小した。

雇用指数は48.6%で、前月比0.6ポイント上昇し、製造業の雇用環境の回復を示した。

仕入先納期指数は49.5%で、前月比0.4ポイント上昇し、基準値を下回りました。これは、製造業における原材料仕入先の納期が前月よりも延長したことを示している。



(Bureau of Statistics of China 2026年4月1日付)

◆海外業界ニュース：ラテンアメリカ

メキシコとブラジルにおける資本投資の急増は、ラテンアメリカの産業能力の深化を示唆している。多国籍企業と地域企業が、自動車、半導体、エネルギー、先端製造業といった分野にわたる施設の設立または拡張に動いている。

メキシコ

- この傾向を最も明確に示している地域の一つが、メキシコのバヒオ回廊である。グアナファト州シラオにヘン・アメリカスの新工場が開設されたことで、北米で最も集中した自動車サプライチェーンの一つとなったこの地域に、新たな拠点が加わった。400万ドルを投じたこの施設は、増加の一途をたどる外国資本投資の仲間入りを果たした。これらの投資は、この地域がニアショアリングの拠点として選ばれる地位を確固たるものにしていく。サン・ルイス・ポトシ州も同様の注目を集めている。ジンマ工業グループによる大規模な拡張計画の一環として、ジェンマックスがロジスティックII工業団地に進出したことは、サン・ルイス・ポトシ州がダイナミックな製造拠点としての地位をさらに強固なものにしていく。これにより、同州は大規模な産業プロジェクトを受け入れる態勢を整えている。

- 日産は、アグアスカリエンテス州のA1工場で2026年モデルのヴァーサの生産を開始したことを確認した。これは、メキシコの確立された自動車産業回廊の重要性が依然として高いことを示している。新型モデルの投入は標準的なことだが、今回の動きは、サプライチェーンの変化が北米の製造業を再構築し続ける中で、OEM各社がメキシコの実産インフラに確固たる信頼を寄せていることを示している。
- テルニウム社がヌエボ・レオン州パスケリアで冷間圧延および亜鉛めっき事業を開始したことは、40億ドル規模の投資の一環であり、近年のメキシコにおける単一製造業投資としては最大規模の一つである。年間推定生産能力260万トンの鉄鋼生産能力を持つこのプロジェクトは、メキシコが金属バリューチェーンの上流へとさらに移行し、輸入鋼板への依存度を低減すると同時に、国内の旺盛な自動車および産業需要を満たすことを可能にする。
- ケレタロ州は、メキシコの産業景観において独自の拠点として台頭している。伝統的な製造業よりも、先端技術の分野で際立っている。QSMセミコンダクターズが、高精度集積回路向けMEMS（マイクロ電気機械システム）半導体製造に特化した4,500万ドル規模の国内初工場を開設したことは、メキシコにとって国内半導体生産への異例の進出を意味する。この分野は、これまでメキシコが輸入に頼ってきた分野である。210人の専門職を創出するこのプロジェクトは、世界の半導体業界の基準からすれば小規模だが、その戦略的意義は大きい。ケレタロ州は、ニアショアリング推進派が長年メキシコの産業エコシステムにおける欠落部分として指摘してきた半導体産業の育成拠点としての地位を確立することになる。
- GEヴェルノヴァが同州にエンジニアリングオフィスを開設したことも、この流れを後押しする。同社は、発電、電化、再生可能エネルギーソリューションの地域拠点を設立する。GEヴェルノヴァは、ケレタロ州が単なる製造拠点としてだけでなく、グローバルネットワークにおけるエンジニアリング人材のハブとしても機能すると見込んでいる。これは、さらなる技術投資を同地域に呼び込む可能性を秘めた、より価値の高い提案である。

ブラジル

- メキシコの投資ストーリーがサプライチェーンの統合と技術の高度化を特徴とするならば、ブラジルの投資ストーリーは規模によって特徴づけられる。長城汽車はエスピリトサント州に新たな製造工場を建設すると発表した。投資額は約200億ドルと見込まれ、年間生産目標は20万台以上。実現すれば、世界最大級の新規自動車投資となるだろう。中国の自動車メーカーである長城汽車のこの動きは、中国の自動車メーカーが主要市場への参入において直面する競争圧力と、巨大な国内消費市場としてのブラジルの魅力の両方を反映している。これは特に、新興市場の状況に適した車両にとって顕著である。
- この野心は自動車分野にとどまらない。ブラジル北東部には、15億ドル以上を投じるブラジルと中国の合弁による巨大産業複合施設が計画されている。このプロジェクトは、持続可能な燃料、化学製品、低炭素技術を対象としている。これらの分野は、ブラジルがバイオエネルギー分野で築いてきた強みと、世界のエネルギー転換におけるブラジルの役割拡大と合致している。シェルは、コサンとのエタノール合弁会社であるライゼンに6億6600万ドルを投資することを表明している。これは、ブラジルが低炭素産業生産のリーダーとしての地位を確立しつつあるというイメージを裏付けるものである。

- 消費財分野もこの流れに追随している。ネスレはサンタカタリーナ州に3億5000万ドルを投じて工場を建設すると発表した。これは同社のブラジルにおける生産量を倍増させる計画である。このプロジェクトでは、ロボット工学、AI、インダストリー4.0技術が活用される。これは、国内需要と、地域輸出拠点としてのブラジルの潜在力に対する自信を反映している。同社はチリ、コロンビア、メキシコを輸出市場としてターゲットにしている。これは、ブラジルの製造業がより広範なラテンアメリカのサプライネットワークに統合されつつあることを示している。
- ブラジルの製造業PMIは、新規投資と製品開発の好調に支えられ、2026年2月には47.3に上昇した。これは1月の43.0から回復したことを示している。
この上昇傾向は、投資環境が投資シナリオと一致しつつあることを示す、ささやかではあるが確かな兆候である。

(AMT ONLINE 2026年3月26日)

◆海外業界動向：中国

中国国家统计局によると、2025年の中国経済は前年比5%成長し、GDPは約19兆5000億ドルに達した。製造業投資がこの成長に貢献し、固定資産投資全体は減少したものの、第二次産業投資は2.5%増加した。2026年に向けて、3月の中国製造業PMIは50.4となり、景気拡大と縮小の分岐点となる50ポイントを上回った。ハイテク製造業が52.1で首位、次いで設備製造業が51.1、消費財製造業が50.8となった。

貿易面では、2025年の中国の財貿易総額は前年比3.2%増の6兆3500億ドルに達した。輸出は5.5%増の3兆7700億ドル、輸入はほぼ横ばいの2兆5800億ドルだった。ASEAN（東南アジア諸国連合）は引き続き中国最大の貿易相手国であり、貿易総額は1兆ドルを超え、次いで欧州連合(EU)が8,280億ドルで続いた。米国は5,590億ドルで3位となったが、両国間の貿易は全体で18.7%減と大幅に減少し、特に中国から米国への輸出は20%減少した。対照的に、アフリカ諸国との貿易は18.4%増加し、「一帯一路」構想沿線諸国との貿易は6.3%増の3兆3,000億ドルに達した。

プロジェクトレベルでは、最近発表されたいくつかの投資が、優先度の高い分野における継続的な勢いを反映している。

- ロボット工学と自動化の分野では、山東省濰坊市の英特威科技(Ying Te Wei Sci & Tech)が、年間3,000台の生産目標を掲げ、ロボット製造のための新工場に投資している。寧波では、舒盛科技がバイオロボット、ドローン、軽量部品を網羅する研究開発プロジェクトに投資を行っている。
- 安徽省宣城市では、易吉CNC工作機械有限公司が年間生産能力9,950台のCNC工作機械と2,000台の産業用ロボットを製造する予定。
- 電気自動車部品業界では、金華市にある浙江万賽汽車部品がEVブレーキシステム製造工場を建設中で、年間生産目標は1,000万台です。また、蕪湖西林新猛科技はEVコンプレッサー製造のため、加工・計測機器への投資を行い、年間生産目標は50万台。
- 半導体業界では、蘇州市にある新雷半導体科技が光電子部品を製造し、年間生産目標は30万キット。
- AMT（米国製造技術工業協会）は、4月21日から25日まで上海で開催されるCCMT 2026（中国CNC工作機械見本市）に、出展者グループを率いて参加する。上海新国際博覧中心で開催されるこの見本市には、約200万平方フィートの展示スペースに、27の国と地域から2,000社以上の出展者が集まる。

(AMT ONLINE 2026年4月7日)

◆米国通商動向：米国・メキシコ・カナダ協定の共同見直し

2026年7月1日に予定されている米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の共同見直しに向けた準備は、より体系的な段階に入った。米国通商代表部(USTR)によると、ジェイミソン・グリア駐米大使とマルセロ・エブラルド・メキシコ経済相は、技術チームに対し、定期的な会合の開催と、正式な委員会会合に先立つ成果物の明確化を指示した。USTRは、3月18日の会合で、7月1日の見直しに向けた二国間技術協議が正式に開始されたと発表した。

二国間協議は1月下旬に具体化し始め、両当局者は協定の改定案に関する正式な協議を開始することで合意した。報道によると、予備的な議題には、工業製品の原産地規則の強化、重要鉱物に関する協力の強化、ダンピングされた工業製品が地域生産者に与える影響への対策の調整などが含まれていた。

このプロセスは3月5日に正式に開始された。USTRは共同声明の中で、閣僚らが交渉担当者に対し、協定の利益が主に当事国に帰属することを確実にするための措置に関する協議を開始するよう指示したことを明らかにした。これには、域外からの輸入への依存度を低減し、原産地規則を強化し、北米サプライチェーンの安全性を高めるための取り組みが含まれる。USTRはさらに、交渉担当者らは3月16日の週に最初の会合を開催し、共同検討プロセスの一環として定期的に会合を続ける予定であると述べた。

3月18日までに、協議は技術的な作業段階にまで進展した。USTRは、両政府が、地域サプライチェーンにおける「非市場投入物」の役割を制限しつつ、米国とメキシコの生産能力と製造業雇用を拡大するための政策オプションに関する協議を開始したと報告した。これらの協議には、経済安全保障上の考慮事項、原産地規則、および潜在的な補完的貿易措置が含まれます。技術チームはまた、7月1日の共同レビューに先立ち、具体的な成果物を準備するよう指示されました。

一方、カナダは安定性と関税緩和を主要な目標として強調しています。バーカー・マッケンジーの分析によると、2026年のレビューは単なる定例評価以上の意味を持ち、カナダは米国市場における関税引き下げを追求しつつ、協定の予測可能性を維持しようとしています。同社はさらに、カナダが交渉力強化のためメキシコとの連携を強化する見込みであると指摘した。特に、カナダ企業は追加関税や関税割当の引き上げ、カナダ国境サービス庁による検査活動の強化、そして評価規則の変更案に直面しており、これらによって社内コンプライアンスの調整や追加の裁定申請が必要となる可能性がある。

プロセスの動向と非対称性

見直しプロセスにおいて、初期段階で非対称性が浮上している。3月6日の報道によると、カナダと米国は今後の見直しとより広範な二国間貿易問題について協議を行っていたものの、両政府はまだ正式に見直しプロセスを開始していなかった。これは、より進展している米国とメキシコの協議とは対照的である。同報道では、カナダのドミニク・ルブラン大臣が、より広範な見直しに組み込まれる可能性のある二国間協定を通じて、特定の分野における関税軽減を確保するため、米国の担当者と協議を行っていたことも報じられた。

こうした状況にもかかわらず、カナダとメキシコはともに、三国間協定の構造を維持することの重要性を強調し続けている。3月12日に報じられた声明によると、カナダのキャメロン・マッケイ駐メキシコ大使とメキシコのルイス・ロセンド・グティエレス貿易副長官は、米国が特定の分野で二国間アプローチを優先する可能性があるとの兆候が見られるにもかかわらず、米墨加三国枠組みの維持が依然として優先事項であることを再確認した。

手続き面では、米国の協議プロセスは既にかかなり進んでいる。2025年9月17日に連邦官報に掲載された告示により、議会が義務付けた最初の共同見直しに関するパブリックコメントプロセスが開始された。この告示では、協定第34条7項に基づき、自由貿易委員会は協定発効6周年にあたる2026年7月1日に会合を開き、協定の運用状況を評価し、勧告案を検討することが規定されている。米国通商代表部(USTR)はその後、準備プロセスの一環として、2025年12月3日から5日までの3日間、公聴会を開催した。

これらの展開を総合すると、米国とメキシコのルートが現在、レビューの初期技術段階のペースと内容を決定づけていることが示唆される。同時に、カナダはこの二国間の動きが事実上の再編に発展しないようにすることに注力しているようだ。

(Global USA 2026年3月30日)

◆米国通商動向：EU・米国ターンベリー貿易枠組み

欧州議会は3月26日、EU・米国ターンベリー貿易枠組みを推進する2つの措置を承認し、実施に向けた重要な手続き上の一步を踏み出した。これらの措置は、米国産工業製品、水産物、農産物に対するEUの関税を引き下げるとともに、米国が規定を遵守しない場合にEUを保護するためのセーフガードを盛り込んでいる。

主要な関税措置は賛成417票、反対154票、棄権71票で可決された。特定の輸入品に対する無関税措置に関する関連措置は賛成437票、反対144票、棄権60票で可決された。これらの法案は今後、EU加盟国との理事会での交渉に進み、最終的な議会採決は春の後半に行われる見込みである。

採決後の声明で、欧州議会は、この合意案は2025年夏にターンベリー合意の下で交わされた約束に沿って、米国産工業製品に対する関税の大部分を撤廃し、幅広い米国産水産物および農産物に対する特恵的な市場アクセスを拡大することを目的としていると表明した。しかしながら、欧州議会議員(MEP)は、これらの譲歩の実施と持続性に関する追加条件を導入した。

停止および条件付きメカニズム

承認された条文には、欧州委員会がいくつかの条件の下で関税優遇措置を全部または一部停止できる強化された停止条項が含まれている。これらの条件には、米国が合意された15%の上限を超える関税を課した場合、EU製品に新たな関税を導入した場合、合意の目的を損なう場合、EU経済主体を差別した場合、加盟国の領土保全または外交政策上の利益を脅かした場合、あるいは経済的強制を行った場合などが含まれる。

欧州議会議員らはまた、「サンライズ条項」を盛り込み、EUの関税譲許の発効条件として、米国が事前にこれらの譲許を遵守することを定めた。具体的には、米国が鉄鋼またはアルミニウムを50%未満含むEU製品に対する関税を最大15%まで引き下げない限り、EUの優遇措置は適用されない。さらに、「サンセット条項」により、影響評価を伴う新たな法案によって更新されない限り、2028年3月31日に本規制は失効する。

政治的背景と議会の立場

報告者のベルント・ランゲ氏は、議会の立場は市場アクセスに対する条件付きアプローチを反映していると強調した。同氏は、協定の承認は明確なセーフガードの導入と、米国が約束を遵守していることの確認にかかっていると述べた。さらに、関税引き上げの脅威が再び高まった場合、あるいはEUの利害関係者にとって測定可能な利益が得られなかった場合、本法制は失効すると指摘した。

今回の採決により、ターンベリー・パッケージをめぐる遅延と不確実性の期間に終止符が打たれた。米国の関税引き上げの脅威が再び高まったことを受け、議会での審議は一時中断されていた。議員の間では、EUがほとんどの輸入関税を撤廃する一方で、米国は多くのEU製品に対して一律15%の関税を維持するという、この取り決めが非対称的であるとの懸念が依然として残っている。

こうした懸念にもかかわらず、欧州委員会のマロシュ・シェフチョビッチ貿易担当委員は、今回の採決をEU企業にとっての予測可能性を高めるための重要な一歩と位置づけた。

今後の展開

3月26日の採決は協定を正式に発効させるものではなく、欧州議会が理事会および欧州委員会との三者協議を開始することを承認するものである。この進展の意義は、EUの譲歩を米国の継続的な遵守を条件とする一方で、関税引き上げやより広範な地政学的リスクに対応して協定を一時停止または終了させるメカニズムを維持しようとする欧州議会の取り組みにある。

(Global USA 2026年3月30日)

◆米国通商動向：日米首脳会談

19日(木)にホワイトハウスで開催されたトランプ大統領と高市早苗首相による首脳会談では、当初の予想を上回る幅広いイニシアチブが発表された。このイニシアチブは、重要鉱物、エネルギー、技術、防衛といった分野に及ぶ。会談の成果は、中東の安全保障と同盟関係の管理が主な議題になるとの当初の予想をはるかに超えるものとなった。

貿易関連の主要な成果の一つは、ジェイミーソン・グリア米国通商代表が発表した「重要鉱物に関する日米行動計画」の導入である。この計画は、サプライチェーンの脆弱性を軽減し、重要鉱物の輸入に依存する川下産業を支援することを目的とした、貿易政策と国境措置に関する二国間協力の枠組みを確立するものである。ホワイトハウスによると、このイニシアチブは、価格下限などの安定化措置を組み込んだ、将来的な複数国間協定の基盤となることも意図されている。

さらに、米政権は日米戦略投資枠組みに基づく第2弾のプロジェクトを発表した。共同声明によると、これらのプロジェクトには、テネシー州とアラバマ州でGE Vernova Hitachiが開発する小型モジュール炉への最大400億ドルの投資、ペンシルベニア州のガス発電プロジェクトへの最大170億ドルの投資、テキサス州のガス発電プロジェクトへの最大160億ドルの投資が含まれる。これらの投資は、データセンターの併設インフラを支援することも目的としている。

これらの動きは、2月に発表された最初のプロジェクト群に基づいている。最初のプロジェクト群には、6億ドルの工業用合成ダイヤモンド事業、21億ドルの原油輸出インフラ事業、そして333億ドルのガス発電事業が含まれていた。後者のガス発電事業には、オハイオ州で計画されているデータセンター向け電力供給プロジェクトが含まれていると広く認識されており、このプロジェクトは日本国内で議論を呼んでいる。

サミットに先立つフィナンシャル・タイムズの報道によると、ソフトバンクは当初、オハイオ州のプロジェクトに関連して約1兆円(約63億ドル)の手数料を受け取る予定だったという。報道によると、その後、日本政府関係者が介入し、提案された料金体系が大幅に引き下げられた。また、ソフトバンクはGE Vernova社に約100億ドル相当のタービンを発注し、自社が運営するデータセンターへの電力供給も計画しているという。

ホワイトハウスのファクトシートでは、技術と防衛分野における協力拡大についても詳述されている。両国政府は、AIを活用した科学的発見、高性能コンピューティング、量子技術などの分野で協力を深めることで合意した。防衛関連の取り組みとしては、日本におけるSM-3ブロックIIAミサイル迎撃ミサイルの生産量を4倍に増やす計画や、AMRAAMミサイルシステムの生産における日本の役割拡大に向けた取り組みなどが挙げられる。

会談では、地域安全保障上の懸念、特にイラン情勢とホルムズ海峡に関する動向についても議論された。トランプ大統領は日本の支援を公に認め、高市首相は両首脳が中東の平和、安定、エネルギー安全保障の促進に向けた取り組みを継続することで合意したと述べた。

総じて、今回の首脳会談は一連の具体的な経済・安全保障措置を生み出すとともに、二国間関係における変化する力学を反映したものとなった。これらの動きは、協調投資とサプライチェーンの連携への重点化の強化を示唆するとともに、米国における日本資本の展開に関する継続的な懸念も浮き彫りにしている。

(Global USA 2026年3月30日)

◆欧州通商政策情報：EUが、EU米貿易協定で定めた約束を今後も履行するよう要求

米国最高裁判所は、2月20日、トランプ米大統領の世界的な関税措置を無効とする判決を下した。この判決を受けて2月22日には欧州委員会は、米国政府が取るべき次の措置について法的に完全な明確化を求める方針を表明し、EU米貿易協定で定めた約束を今後も履行し、米国にも同様の対応を求める意向を明らかにした。一方でトランプ大統領は、最高裁判所の判決を受けて、別の法的根拠に基づき10%の追加関税を世界的に導入することを発表した(2026年2月24日から発効)。

また、欧州議会では国際貿易委員会(INTA)のランゲ委員長は、EU米貿易協定に関する議会の作業は、「EU米貿易関係における明確性、安定性、法的確実性が再確立されるまで」保留とすることを発表。担当議員が3月初めに状況を再評価するとしている。

(ロイター記事 2026年2月21日、欧州委員会リリース 2026年2月22日)

◆欧州通商政策情報：欧州委員会が「産業加速法」を提案

欧州委員会は3月4日、「産業加速法」を提案した。本提案は、EU製造業の衰退を食い止め、2035年までにEUのGDPに占める製造業の割合を20%に引き上げ、産業の脱炭素化を加速し、重要分野における戦略的依存度を低減することを目標としている。対象は主に(1)エネルギー集約型産業、(2)自動車産業、(3)ネットゼロ産業(ネットゼロ産業法の対象技術)であり、主な提案内容は以下の通り：

- エネルギー集約産業：2029年1月1日以降に開始される公共調達手続き及び公的支援制度において、当局は建築・インフラ・運輸プロジェクトで使用する鉄鋼、コンクリート及びモルタル、アルミニウムに対し、以下要件を適用する。
 - 鋼材の最低25%は低炭素とする(EU産要件はなし)。
 - コンクリート及びモルタルの最低5%はEU産および低炭素とする。
 - アルミニウムの最低25%はEU産および低炭素とする。
- 自動車分野：EV、プラグイン・ハイブリッド車、または燃料電池車の公共調達および、社用車に対する公的支援制度には、EU産要件が課される：該当車両はEU域内で組み立てられ、EU産部品を70%以上含む(電池以外)、かつ電池部品に関する追加の原産地要件を満たす必要がある。発効して3年後以降は、eパワートレインおよび電子システムにも要件が追加される。
- ネットゼロ技術：欧州委員会はネットゼロ産業法を改正する形で、蓄電池エネルギー貯蔵システム太陽光発電技術、水素、水熱式ヒートポンプ、陸上・洋上風力技術および核分裂技術の公共調達オークション、その他公的介入、建設・製造支援に対しEU産要件を規定している。

EU産の範囲

欧州委員会は、当初の立場を緩和し、「EU産」に以下の国も含めることを提案した。(ただし、欧州委員会が委任法を通して例外的に除外することが可能)。

公共調達	EUが自由貿易地域または関税同盟を確立する協定を締結した国、あるいは政府調達協定の締約国であり、かつ当該協定に基づきEUの関連義務が存在する国
その他の公的介入	EUと自由貿易協定または関税同盟を結んでいる国

そのほかにも、産業加速法には、産業プロジェクトの許認可手続きや、加盟国による「産業製造加速区域」の導入、1億ユーロ超の外国直接投資の条件付認可(電池技術・エネルギー貯蔵システム、EV、プラグイン・ハイブリッド、燃料電池車、太陽光発電技術、重要原材料の採掘・加工・リサイクル分野が対象)などに関する規定も盛り込まれた。

(欧州委員会リリース 2026年3月4日、Q&A、法案、附属書案)

◆欧州通商政策情報：2026年1月・2月の中国の対EU輸出が28%増加、欧州委員会は迂回監視を継続

Euractivによれば、2026年の1~2月期に中国の輸出が21.8%急増し、うち、対米輸出が11%減少した一方で、対EU輸出が28%増加している。欧州委員会の報道官は、Euractivに対し、欧州委員会が「輸入監視専門タスクフォース」を設置し、商品がEUへ迂回されているかどうかを追跡することで、貿易の迂回の可能性を監視していると説明した。また、欧州シンクタンクのBruegelの研究者は、このような対EU輸出の増加は、EUによる新規制の導入を見越した駆け込み需要を反映している可能性がある」と指摘した。

(Euractivニュースレター)

3. 工作機械関連企業動向

◆ SNTグループ、ロボット・工作機械事業の再編 SNT モーティブが「コントロールタワー」

SNTグループは、将来の成長分野であるロボット・自動化事業に注力するため、主要子会社であるSNTモーティブにSNTロボティクスと工作機械会社のSMECの株式を集中させることにした。SNTモーティブは「ロボット産業がモーター、駆動系、電子制御技術が結合した産業へと再編され、精密製造能力を有するSNTモーティブが事業を主導することが有利である」と判断したと述べた。

SNTホールディングスは23日、保有しているSMECの全株式(13.65%)と、100%子会社であるSNTロボティクスの全株式をSNTモーティブに譲渡することを決定したと公表した。来月22日、時間外の大量取引(ブロックディール)方式で成立する予定だ。処分単価は20日終値基準の5,130ウォンで暫定的に算出された。最終価格は取引当日の4月22日の韓国取引所の相場に基づいて確定される。

今回の株式譲渡の核心は、SNTモーティブをグループ内のロボットおよび自動化事業の中心に再編することである。SNTモーティブはモーターと駆動系技術を、SMECは工作機械を、SNTロボティクスは知能型ロボット制御技術を保有している。

特に現在進行中のウエア工作機械の買収取引を成功裏に完了させるための布石と解釈されている。SNTグループはSMECの買収に続き、ウエア工作機械まで取り込んで工作機械市場の強者へと躍進する構想だ。

SNTホールディングスは、比較的優れたキャッシュフロー創出力と資本力を有するSNTモーティブを実行主体として掲げ、RYLSON PEとの協議を迅速に進める方針だ。最近浮上したSMECの経営権変動に関する労務問題への対応姿勢も今回の取引に反映された。SMECの労使協議会が組合設立の可能性に言及し、経営の不安定性が指摘されるとグループ側は長年にわたる組合関係と労務管理の経験を積んだSNTモーティブの専門性が必要だと判断した。チェ・ピョンギユSNTグループ会長が保有するSMECの株式は今回の取引対象から除外された。

(韓国経済新聞 3月23日付)

<https://www.hankyung.com/article/202603230800i>

◆ Mikron、営業利益率を 10.3% に引き上げ

2025 年度年次報告書

ミクロン(SIX:MIKN)は、2025会計年度の純売上高が3億8,190万スイスフランとなり、前年度比2.1%増となった。為替変動の影響を除いた実質ベースでは、純売上高は4.1%増加した。営業利益は3,950万スイスフランとなり、2024年の3,190万スイスフランから増加した。営業利益率は10.3%となり、前年の8.5%から上昇した。

2025年は、ミクロンの戦略的方向性の強靭さが試され、その強さが改めて確認された年となった。グループ全体では、受注高は前年比で減少したが、これは複数の業界および地域における投資行動の慎重化を反映している。しかしながら、ミクロンは安定した事業実績を維持し、主要な戦略的イニシアチブを推進し、強固な財務基盤を維持した。営業利益率10.3%を達成し、グループは収益目標を上回り、純売上高3億8,190万スイスフランを記録した。これは、経営規律と顧客への高い価値提供の両方を実証するものである。ミクロンのビジネスモデルは、引き続き堅牢で将来に向けて有利な立場にあることが証明されている。

受注高と受注残高

ミクロンの2025年の受注高は3億3,270万スイスフランで、前年比14.4%減となった。オートメーション事業の受注高は2億3,220万スイスフランで、12.4%減となった。米国における受注高は、主に顧客の意思決定プロセスの長期化と、製薬・医療機器分野におけるプロジェクトの延期により、予想を下回った。マシンングソリューション事業の受注高は1億70万スイスフランで、18.6%減となった。落ち込みは特に欧州で顕著で、同地域の産業投資は依然として非常に低調でした。地政学的な不確実性の継続と、米国による一部製品への関税措置が、さらなる圧力となり、顧客の投資決定を遅らせた。

売上高

ミクロンの売上高は3億8,190万スイスフランで、前年比2.1%増となった。スイスフラン高の影響で、売上高は前年比2.0%減少した。医薬品・医療機器業界が売上高の66%を占め(2024年：61%)、前年比11.0%増となったこれらの業界は、ミクロンの成長を牽引する主要な原動力でもある。

オートメーション事業の売上高は2億5,010万スイスフランで、前年比7.2%増となった。売上高の97%は医薬品・医療機器業界によるものである(2024年：94%)。オートメーション事業は、欧州で13.2%の力強い成長を継続したが、北米では29.0%、アジアでは21.1%の減少となり、その成長は一部相殺された。

マシンングソリューション事業の純売上高は6.2%減の1億3,200万スイスフランとなった。北米は21.6%の成長を遂げた一方、欧州とアジアはそれぞれ12.7%減、9.8%減となった。これを受け、マシンングソリューション事業は、効率性と競争力強化のため、コスト削減計画と事業拠点の拡大を実施する。同時に、同事業部門は、特に高精度加工プラットフォームとデジタルサービスにおいて技術革新を継続し、将来的に変化する業界ニーズに対応できる体制を整えている。

収益性

ミクロンの2025年度の営業利益は3,950万スイスフラン(純売上高の10.3%)となり、前年度の3,190万スイスフラン(純売上高の8.5%)を上回った。営業利益増加の主な要因は、欧州におけるオートメーション事業の売上増加と、米国事業の適正規模化である。

見通し

2025年末にかけて、ミクロンは両事業セグメントにおいて受注の減少を経験した。グループはオートメーション事業の減少は一時的なものと考えているが、マシンングソリューション事業は市場全体の低迷が継続しており、回復の見通しは立っていない。そのため、ミクロンは2026年の純売上高を3億4,000万～3億8,000万スイスフラン、営業利益率を7～10%と予測している。

Key figures for the Mikron Group

CHF million	2025	2024	+/-
Order intake ¹⁾	332.7	388.6	-14.4%
– Automation	232.2	265.0	-12.4%
– Machining Solutions	100.7	123.7	-18.6%
Order backlog ¹⁾²⁾	276.1	324.1	-14.8%
– Automation	212.8	232.9	-8.6%
– Machining Solutions	63.3	91.2	-30.6%
Net sales	381.9	374.1	2.1%
– Automation	250.1	233.3	7.2%
– Machining Solutions	132.0	140.8	-6.2%
Operating profit	39.5	31.9	23.6%
as % of net sales	10.3%	8.5%	
Net profit	32.5	27.9	16.7%
Free cash flow ¹⁾	-11.9	48.9	n.a.
Total assets ²⁾	379.1	400.0 ³⁾	-5.2%
Shareholders' equity ²⁾	236.6	218.1 ³⁾	8.5%
Equity ratio ¹⁾²⁾	62.4%	54.5% ³⁾	7.9% pts.

¹⁾Alternative performance measure, see 2025 Annual Report, pages 86 and 87, or www.mikron.com/apm

²⁾End of year

³⁾restated

(Mikron Press Release 2026年3月)

◆ベアリング大手 SKF、台湾 G-Tech を買収状態監視技術を強化

スウェーデンのベアリング大手SKFは9日、状態監視(コンディションモニタリング)技術を手掛ける台湾のG-Tech Instrumentsを買収すると発表した。デジタル化された信頼性ソリューションを強化し、産業機械の予知保全サービスを拡充する目的。取引額は明らかにされていない。

状態監視はSKFのサービス事業における重点分野のひとつ。買収を通じてG-Techの振動解析装置や診断ツール、状態監視システムなどの技術を取り込み、既存ポートフォリオの拡充と、予知保全の包括的なソリューション基盤構築を目指す。これにより顧客企業の機械稼働率向上や保守コストの削減などを支援する。

G-TechはこれまでもSKFのサプライヤーだった。同社がアジア市場に持つ拠点や製品ノウハウを活かすことで、SKFにとり新たな事業機会の創出や製品開発の加速につながると期待される。

(プレスリリース 3月9日)

<https://www.skf.com/group/news-and-events/news/2026/2026-Mar-09-skf-makes-acquisition-to-strengthen-its-condition-monitoring-portfolio>

4. 展示会情報

◆台湾、TMTS 2026 で AI 主導のデジタル化とグリーン化を推進

(台湾・台中市) TMTS国際記者会見は、台湾工作機械工業会(TMBA)会長のパトリック・P・チェン氏が開会挨拶を行い、台湾工作機械産業が「60kmゴールデンバレー」と呼ばれる高密度集積地を活用し、「集合知」へと変革を遂げる様子を明らかにした。会見の中でチェン氏は、今年の展示会のテーマを「AIを活用した持続可能な製造」と正式に発表した。

記者会見には、同泰工作機械有限公司、永晋機械有限公司(YCM)、銀石精密工業有限公司、海路嘉和有限公司(HLJH)といった主要メーカーが参加し、それぞれの知見を共有した。これらの企業は、デジタル変革(DX)とグリーン変革(GX)を通じて、精密部品からインテリジェント機械への移行における台湾の強固な能力を共同で示した。

会長挨拶：世界最高密度工作機械クラスターにおける集合知

陳会長は、台湾工作機械産業発祥の地である台中市が、世界最高密度の産業クラスターへと発展したことを強調した。

60kmに及ぶゴールデンバレー：この地域は、垂直統合と迅速な対応を可能にする柔軟性を備えた、極めて高密度のサプライチェーンを集積し、独自の「集合知」を生み出している。

TMTS 2026の6つの主要ポイント：

デジタルトランスフォーメーション(DX)：インテリジェントな変革と高度なAI技術の統合。

グリーントランスフォーメーション(GX)：省エネルギー、カーボンフットプリントのモニタリング、グリーンサプライチェーンの構築に注力。

AIデモ：デジタルツインとAI搭載スマートナビゲーション技術のオンサイトデモンストレーション。

グローバルフォーラム：航空宇宙、半導体、ロボット工学など、最先端の産業トレンドに関する詳細な議論。

TMTSアプリ：便利なデジタルナビゲーションで、ペーパーレスの環境に配慮した展示会体験を提供。

デジタル宝探し：インタラクティブなデジタルアプリを通じて、来場者のエンゲージメントを高める。

産業連携：コネクションからエコシステムの共創へ

Tongtai (TTグループ)：エグゼクティブバイスプレジデントのLulu Yen氏は、YCMとの提携は「二つの力、一つの未来」というコアコンセプトに基づき、産業共創を推進するものであると述べた。

エコシステム連携：半導体、航空宇宙、金型、エネルギー、自動車という5つの主要産業を対象に、産業リソースを統合し、高効率でプラグアンドプレイのターンキーソリューションを提供する。

AIとデジタルツイン：Tongtaiラインマネジメント(TLM)システムとNVIDIA Omniverseの統合により、高精度な生産性予測と生産ラインシミュレーションを実現するデモンストレーションを行った。

精密部品とグリーンオイル：インテリジェンスとサステナビリティのラストマイル

YINSH：精密ロックナットのグローバルリーダーであるYINSHのエグゼクティブバイスプレジデント、Jack Wu氏は、10年間の炭素排出量削減ロードマップを発表した。Yinshは、スマートファクトリーとCBAMコンプライアンス報告プラットフォームを通じて、製品の究極の精度を維持しながら、国際的な炭素削減トレンドに対応している。

HLJH：ゼネラルマネージャーのウィル・ツェン氏は、「スマートバイオイル」AIプラットフォームを実演し、切削油を従来の消耗品からデータ駆動型サービスへと変革しました。HLJHは、AIによる推奨と完全な循環型経済モデルを通じて、顧客の工具寿命を50%延長し、ゼロエミッション目標の達成を支援する。

結論：台湾工作機械は、持続可能性における信頼できるグローバルパートナー

TMTS 2026の記者会見は、台湾工作機械産業がもはや単なる単体機械メーカーではなく、AIソリューションと持続可能な変革の道筋を提供する戦略的パートナーであるという明確なメッセージを発信した。大尖山クラスターの集合的なエネルギーを活用し、台湾はデジタルとグリーンの二重変革という新たな未来に向けて、世界の製造業をリードしている。

(Modern Manufacturing India 2026年3月)

◆ IMTEX2027 日本パビリオン出展募集

インド最大級工作機械展 IMTEX 2027

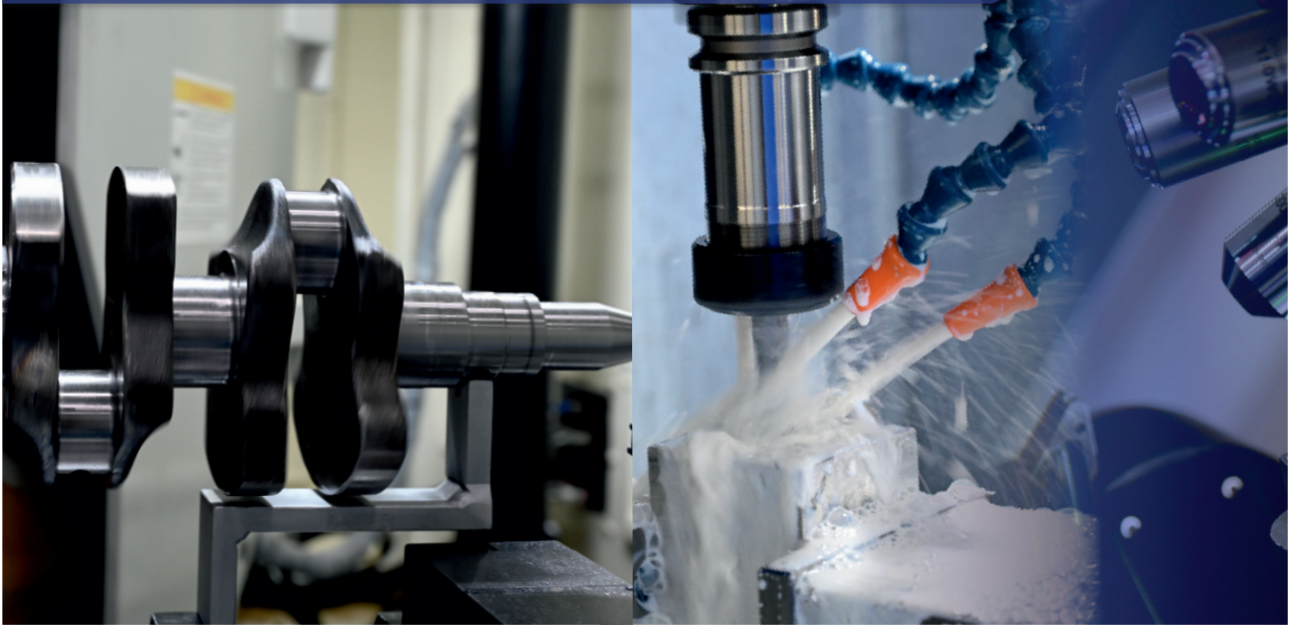
IMTEX[®] 2027
International Machine Tool &
Manufacturing Technology Exhibition



日本パビリオン
出展募集

日程: 2027年1月21日(木)~27日(水)

会場: バンガロール・国際展示場(BIEC)



主催

会場



インド工作機械工業会



バンガロール国際展示場



「メイク・イン・インド」



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。

同時開催



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運営



日印コンサルティング株式会社

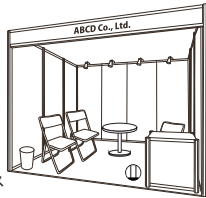
IMTEX 2027 (インド工作機械展) 出展のご案内



出展費用

A パッケージブース 365USD/m² (Min.15m²) +TAX

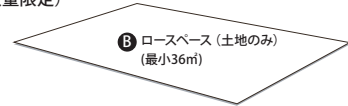
- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット



A パッケージブース (最小12m²)

B ロースペース 330USD/m² (Min.36m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)



B ロースペース (土地のみ) (最小36m²)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
2面オープン+20% / 3面オープン +30% / 4面オープン +50%
* 運営管理費用15%

日本パビリオン

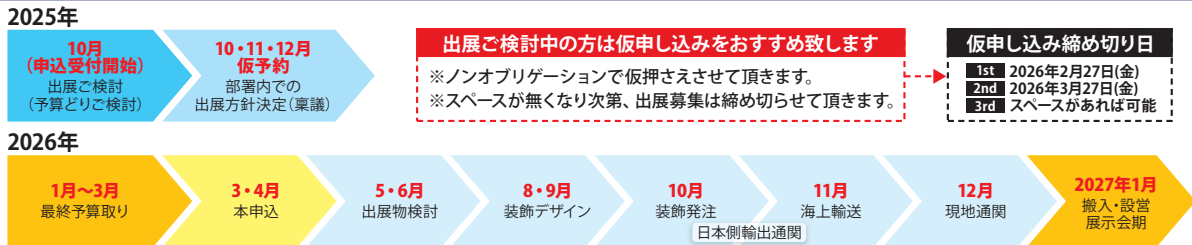
装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸出通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費
- * 展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ (売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR (展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンファレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立 (事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ BIS取得サポート
- ⑨ 人材サポート (高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。 [出展申込リンク](#)



日本代表事務局 運営

JIBE 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

JIC 日印コンサルティング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>

一般社団法人 日本工作機械工業会

JMTBA

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表) ✉ honda@jmtba.or.jp

5. その他

◆ユーザー産業情報

独プロキシマ、バイエルン州などと核融合実証へ 2030年代初頭に「アルファ」稼働目標

プロキシマ・フュージョンは26日、地元バイエルン州、独電力大手RWE、マックスプランク・プラズマ物理研究所(IPP)と核融合の実用化に向けた覚書(MoU)を結んだ。欧州初の商業核融合炉の建設を視野に、まず実証炉を整備する。エネルギー主権と産業競争力の強化につなげる狙いだ。

プロキシマはIPP発のスピナウトで、2023年設立。外部磁石を主体にプラズマを閉じ込める準等磁場(QI)ステラレーターと高温超電導技術を組み合わせた炉を開発する。本社はミュンヘン。

実証炉「アルファ」はガルヒングのIPP隣接地に、商業炉「ステラリス」はグントレミンゲン原発跡地に設置する。アルファは2030年代初頭の稼働を目指す。プロキシマが設計・調達・建設を担い、IPPが科学面を主導する。総事業費は約20億ユーロ。州が4億ユーロを支援し、同社も4億ユーロを拠出する。州は連邦政府に10億ユーロ超の支援を求める。

商業炉ではRWEが既存インフラの活用や運営・認可取得のノウハウを提供する。これにより建設コストと期間の圧縮を図る。独ではビブリス原発跡地でも別の核融合計画が進むなど、原発跡地の再活用が広がっている。

(fnp.de 2月26日付)

<https://www.fnp.de/na-pressemitteilungen/meilenstein-fuer-die-kernfusion-in-europa-proxima-fusion-freistaat-bayern-die-max-planck-gesellschaft-und-rwe-kooperieren-um-gemeinsam-das-erste-zr-94187971.html>

ザルツギターの水素製鉄に3.2億ユーロ追加助成 独政府・州、総額13.2億ユーロに

ドイツ連邦経済省とニーダーザクセン州経済省は23日、鉄鋼大手ザルツギターが進める水素製鉄プロジェクト「SALCOS(Salzgitter Low CO2 Steelmaking)」への助成額を3億2,200万ユーロ上積みすると発表した。欧州連合(EU)の欧州委員会の承認は取得済みで、助成総額は13億2,200万ユーロに拡大する。

SALCOSは本社所在地ザルツギターで進める脱炭素転換計画。従来の高炉でコークスを燃焼させる製鉄法を、還元剤にグリーン水素を用いる直接還元方式へ切り替える。計画は3段階で構成し、第1段階は2027年に始動する予定だ。

同事業は2022年、EUの「欧州の共通利益に適合する重要プロジェクト(IPCEI)」として、連邦政府と同州による計10億ユーロの助成が承認された。その後、別枠支援の計画が頓挫したため、今回の追加助成で不足分を補い、事業の遅延回避を図る。

助成対象は直接還元炉、電炉(アーク炉)、およびグリーン水素製造用の水電解装置。独政府は鉄鋼分野の脱炭素を産業競争力維持の柱と位置付けている。

(プレスリリース 2月23日付)

https://www.mw.niedersachsen.de/startseite/uber_uns/presse/presseinformationen/bund-und-land-erhoehen-forderung-fur-salcos-ausbaustufe-1-auf-1-322-milliarden-euro-248898.html

トルコ YESS、ルーマニア進出へ 南東欧で再エネ×蓄電を拡大

トルコのエネルギー・エンジニアリング企業YESS Powerは、ルーマニア市場への参入を計画している。南東欧で再生可能エネルギー発電とバッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)を組み合わせたハイブリッド事業を拡大する方針で、ルーマニアに高い成長余地を見込む。南東欧経済ニュースサイトのSeeNewsが20日報じた。

同社はこのほど、北マケドニア南部ノバツィの出力55メガワット(MW)の太陽光発電所に、容量30MW・60メガワット時(MWh)の大規模BESSを設置した。再エネ導入拡大に伴い電力需給の調整力確保が課題となるなか、南東欧全体で蓄電投資が加速するとみている。

BESSのバッテリー本体は中国のCubenergyが製造。YESSは発電所の設計、設置、保守を含むエンジニアリング全般を担う。南東欧各国で電力インフラの近代化が進む中、同社はハイブリッド型案件の受注拡大を目指す。

(/business-review.eu 2月20日付)

<https://business-review.eu/energy/green-renewables/first-solar-plus-storage-project-in-western-balkans-yess-power-targets-expansion-into-romania-293654>

トヨタ欧州、ポーランドに循環工場 年2万台の廃車を再資源化

トヨタ・モーター・ヨーロッパ(TME)は19日、ポーランド南西部ヴァウブジフ工場に資源循環拠点「サーキュラーファクトリー」を新設すると発表した。欧州で循環型ビジネスモデルを構築する戦略の一環。施設面積は約2万5,000平方メートルで、年間約2万台の廃車を処理する能力を持つ。

新施設では廃車から再使用可能な部品と原材料を回収する。バッテリーやホイールは再利用やリサイクルの可否を評価し、銅、鉄、アルミニウム、プラスチックなどは原料として新車生産に再投入する。資源価格の変動や脱炭素要請が強まるなか、材料の内製循環を強化する狙いだ。

TMEは2025年、英バーナストンに初のサーキュラーファクトリーを開設した。今回ポーランドを選んだ理由として、廃車の安定調達、リサイクル市場の成長性、既存の製造インフラの充実を挙げる。今後数年で欧州各地への展開を進める方針だ。

(electrive.com 2月20日付)

<https://www.electrive.com/2026/02/20/toyota-builds-large-recycling-plant-in-poland/>

仏ハチソン、Hyvolution で PFAS フリー水素シール 設計段階から参画へ

仏ポリマー大手ハチソンは2月17日、パリで開かれた水素展示会Hyvolution Paris 2026に出展し、水素分野向け高機能ソリューションを披露した。電解装置や燃料電池、モビリティ用途を対象に、シーリング、流体管理、防振技術を統合した提案を打ち出した。

とくにPFASフリーのガスケットを前面に掲げ、欧州で強化が進む環境規制を見据えた材料戦略を明確にした。高圧で分子径の小さい水素は透過しやすく、シール材には耐水素性や耐圧性、長期耐久性が求められる。非フッ素系材料で同等性能を確保できるかが競争力を左右する。

展示では、スタック内部ガスキットの高精度化や流体経路の最適化を通じ、設備投資(CAPEX)や運営費(OPEX)の低減とリークリスク抑制を図る設計思想も示した。幹部は専門家向けセッションで、水素システムの信頼性向上に向けた共同開発の重要性を強調した。今後は部品供給にとどまらず、設計段階から参画する開発パートナーとして水素インフラ拡大を取り込む。

(プレスリリース 2月17日付)

<https://www.hutchinson.com/en/articles/hyvolution-2026-hutchinson-accelerates-its-hydrogen-strategy>

独バインブアー鑄造、誘導炉へ更新 CO₂ 最大 90%削減

バインブアー鑄造は、ABPインダクションと契約を結び、シュヴェルテ工場のキュボラ炉を電気式誘導溶解設備へ更新する。CO₂排出量を最大90%削減できる可能性があり、独鑄造業界でも大規模な脱炭素投資となる。2026年末までに据え付けを終え、27年初頭に初湯を予定する。

新設備の溶湯能力は毎時25トン。ABPのIFM7シリーズのつぼ炉3基を2系統で構成し、安全性と運転の柔軟性を確保する。電源は8,000キロワット級の中周波コンバータ2基。操業データはデジタル制御ソフト「Prodapt Enterprise」で一元管理し、トレーサビリティと監査対応力を高める。

設計は2021年の事前調査を基に、ABPの「Meltshop Designer」で複数シナリオを解析。販売変動やスクラップ活用、既存保持炉との統合、エネルギー効率を織り込み、柔軟な溶解体制を構築する。

冷却系も刷新する。従来の冷却塔に代え、回転数制御型の空冷・水冷クーラーと最大2,000キロワットの廃熱を回収可能な水・水熱交換器を導入。戻り温度約80度を想定し、追加ヒートポンプを不要とする設計で、省エネと低騒音を両立する。低炭素鑄物需要の拡大を背景に、溶解工程の電動化とデータ統合が競争力の鍵となる。

(home-of-foundry 2月18日付)

<https://www.home-of-foundry.de/news/beinbauer-casting-investiert-in-elektroschmelzbetrieb-2719>

フィンランド IQM、SPAC 経由で上場へ 欧州量子企業で初

フィンランドの量子コンピューター新興企業IQMは23日、新規株式公開(IPO)計画を発表した。欧州の量子技術企業として初の株式市場デビューとなる。研究開発と事業拡大に必要な資金を迅速に確保し、国際競争力を高める狙いだ。創業者の一人であるヤン・ゲッツ社長は独紙『フランクフルター・アルゲマイネ』に対し、上場により競争力を維持できるとの考えを示した。

同社は2018年設立。本社はエスポーに置き、従業員約350人のうち約100人がミュンヘンに勤務する。これまでに21システムを13顧客へ納入し、世界の主要スーパーコンピューターセンターのうち4機関が導入した。2025年の売上高は3,500万ドルだが、受注残は1億ドル超に達する。

IPOは米ナスダック上場のSPAC、RAAQとの合併を通じて実施する。企業価値は18億ドルと評価され、上場後の手元資金は4億5,000万ドル超となる見通し。ヘルシンキ市場での重複上場も検討する。

(trendingtopics.eu 2月24日付)

<https://www.trendingtopics.eu/iqm-finnish-quantum-unicorn-goes-public-valuation-at-1-8-billion/>

独テック新興の86%、AIを26年最重要トレンドに Bitkom 調査

Bitkomが実施した調査で、ドイツのテック系スタートアップの86%が人工知能(AI)を2026年の最重要技術トレンドに挙げた。1月中旬から2月上旬にかけて新興企業133社を対象に実施(複数回答可)。他分野を大きく引き離す結果となった。ラルフ・ヴィンターゲルスト会長は、スタートアップは技術潮流に敏感であり、その評価は経済全体にとって示唆が大きいと指摘した。

AIに続いたのは「サイバーセキュリティとプライバシーテック」で52%。データを分散処理・保存する「クラウド・エッジソリューション」(51%)、データ主権を確保する「データ・ソブリンティ」(50%)が僅差で並んだ。

「自律システム」は44%、「バイオテクノロジー／ヘルスケアテクノロジー／バイオAI」は31%、ロボット30%、量子技術29%、人型ロボット24%、宇宙技術23%、「半導体・ハードウェアイノベーション」21%。一方、環境技術14%、ブロックチェーン13%、仮想・拡張現実7%、メタバース5%にとどまった。

(.computer-automation.de 2月24日付)

<https://www.computer-automation.de/vernetzung/bitkom-umfrage-2026--geteilte-stimmung-in-startups.htm>

Protolabs、新発注基盤「ProDesk」 AI-DFM と即時見積を統合

デジタル製造大手Protolabsは、オンライン発注基盤を刷新し、新プラットフォーム「ProDesk」を開始した。3Dプリント、CNC加工、射出成形を横断し、リアルタイム見積とAIによる設計製造性(DFM)解析を統合。開発・調達部門の迅速な試作と量産立ち上げを支援する。

中核は各工法に対応したAI-DFM機能。金属粉末を用いる積層造形では、肉厚やアンダーカット、許容差、サポート構造、造形方向などの制約を事前に可視化する。とくに粉末床溶融結合(PBF)では、部品配向や支持材設計が残留応力や後処理工数、粉末回収率に影響するため、設計初期での最適化が重要となる。材料選択や二次加工、表面処理、納期を含む構成可能な見積を提示し、コストとリードタイムの比較を可能にする。

「Production Catalog」機能では、量産移行済み部品を履歴や図面、品番とともに一元管理。金属AMによる機能試作からCNCや射出成形への切り替え、複数リビジョン管理にも対応する。設計段階でのDFM高度化は、粉末材料の適合性評価や再利用戦略、後処理条件の標準化と直結する。見積と設計最適化の統合により、粉末選定から量産安定化までのリードタイム短縮が期待される。

(3druck.com 2月19日付)

<https://3druck.com/industrie/protolabs-startet-prodesk-sofortangebote-mit-ki-dfm-fuer-3d-druck-cnc-und-spritzguss-12153884/>

インフィニオン、人型ロボを次の柱に 1台500ドルの半導体需要見込む

超独半導体大手インフィニオンは、人型ロボット(HR)を人工知能(AI)データセンターに続く成長分野と位置付ける。ヨッヘン・ハーネベック社長は独紙『ハンデルスブラット』に対し、HRはAIデータセンター向けパワー半導体に匹敵する成長領域になり得ると述べた。既存製品を応用できるため、売上拡大に加え収益性向上も見込む。

同社の2025年9月期のAIデータセンター向け売上は前期比3倍に拡大。26年9月期は2倍の15億ユーロ、27年9月期は25億ユーロを予想する。HRには1台当たり1,100~2,200個の半導体が搭載されるとされ、同社は1台当たり約500ドルの売上ポテンシャルを試算する。

米EV大手テスラがHR「オプティマス」の量産を目指すなど市場は拡大局面に入る。TrendForceは2026年の世界出荷が前年比700%増の5万台超に拡大すると予測。ゴールドマン・サックスは30年に30万~150万台、35年に140万~1,160万台と見込む。

もっとも同社は現時点でHR向けの具体的な業績目標は示していない。市場立ち上がりの速度を見極める構えだ。

(handelsblatt. 2月17日付)

<https://www.handelsblatt.com/technik/it-internet/chiphersteller-infineon-setzt-auf-milliardenmarkt-mit-humanoiden-robotern/100198727.html>

BMW、車体の仕上げ工程に自動カメラ検査導入

独自動車大手のBMWグループは15日、ドイツのディンゴルフィンク工場の車体(ボディショップ)の仕上げ工程に、目視に代わるカメラを使用した自動の表面検査システム(AOI)を導入したと発表した。同工場では、過去2年間に約1,000万ユーロを投じて車体仕上げ工程を統合・最適化した。これにより、工程に必要なスペースと処理時間をそれぞれ約3分の1削減することができた。

新しいAOIでは、ロボットとカメラを使い、車体表面に投影した白黒の縞模様の歪みを解析するデフレクトメトリーによって微細な凹凸や傷を検出する。従来は塗装後の光沢面での検査が中心だったが、反射性の低い無塗装の鋼板でも検査できるよう改良した。検査結果はデータとして蓄積し、異常の追跡や品質改善に活用する。これまで目視検査を担っていた熟練作業者は、より付加価値の高い工程に従事することができる。

AOIの自動化により、研磨材や手袋などの使用量も減少した。BMWは今後、現行モデルだけでなく、新型モデルにも当該プロセスを適用していく方針を示している。

(プレスリリース 2月15日付)

<https://www.bimmertoday.de/2026/02/15/aoi-im-bmw-werk-dingolfing-kamera-checkt-jetzt-auch-matte-oberflaechen/>

洋上水素生産へ電解装置を共同開発、Drift Energy と Enapter

英発電企業ドリフト・エナジー(Drift Energy Ltd)と独伊系電解装置メーカーのエナプター(Enapter AG)は3月3日、海上での水素製造を目的とする電解技術の共同開発契約を締結した。エナプターのアニオン交換膜電解(AEM)技術を海洋環境向けに改良し、洋上でグリーン水素を生産するシステムの実用化を目指す。

契約は、ドリフト・エナジーのベン・メドランド最高経営責任者(CEO)がイタリア・ピサにあるエナプターの製造拠点を訪問した際に締結された。共同開発の主要作業も同拠点で進める予定だ。

開発では、エナプターのモジュール型AEM電解装置を海上用途に適応させる。船舶の揺れや塩害、高湿度などの海洋環境に対応するため、材料や構成部品の耐久性を高める設計を進める。

ドリフト・エナジーは、この電解装置を「エネルギー船」と呼ぶ専用船に搭載する構想を持つ。船上で再生可能エネルギーを利用して水素を直接生産する計画で、現在30隻以上が建造段階にある。

両社は洋上風力発電など海洋エネルギーとの組み合わせによる応用も検討する。現在は船級協会と協力し、船舶認証に必要な技術要件の整備を進めており、海上運用に対応した最初の電解装置は2027年の完成を見込む。

(h2-news.de 3月16日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/elektrolysetechnologie-fuer-wasserstoffherstellung-auf-see-in-entwicklung/>

既存ガス網の水素転用可能性を実証、独 evm グループ

独コブレンツのエネルギー会社evmグループは、既存の都市ガス配管を水素ネットワークへ転用する実証プロジェクトを完了したと発表した。子会社のエネルギーネットツェ・ミッテルライン(Energienetze Mittelrhein = enm)が、独ミュンヘンのエネルギー企業連合トゥーガ(Thüga)と共同で約1年半にわたり検証を行い、2026年3月に結果を公表した。

対象地域はコブレンツ北部のケッセルハイム地区とラインハーフェン工業地区。高圧・中圧・低圧の配管を含む都市ガスネットワークを調査し、産業需要と家庭需要が混在する地域を水素転用のモデルケースとして分析した。

調査ではまず、GISデータや設計図、設備情報などのネットワーク資産データを整理し、外部専門企業が各コンポーネントの水素適合性を評価した。対象には配管、バルブ、ガス圧力調整設備、計測装置などが含まれる。

さらに2035～2040年を想定し、(1)ネットワーク全体の水素化(2)高圧系統のみの転換(3)産業・家庭需要を含む混合モデル—の3つの転換シナリオを策定。段階的な改修ロードマップも作成した。

調査結果によると、既存の配管や制御・計測設備の多くは技術的に水素運用へ改修可能と判断された。一方で実際の導入時期や範囲は、水素供給インフラの整備や規制枠組み、広域パイプライン建設など外部条件に左右されるとしている。

(h2-news.de 3月16日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/koblenz-energieversorger-stellt-gasnetz-auf-wasserstoff-um/>

EV 電池のセカンドライフ事業拡大、独 Voltfang が産業用蓄電へ

独アーヘンのスタートアップ、ボルトファンング(Voltfang)は、電気自動車(EV)で使用済みとなったバッテリーを再利用し、産業用の定置型蓄電システムとして活用する事業を拡大している。EV用電池は容量が70～80%程度に低下すると車載用途では性能不足となるが、定置用途では最大10年程度の追加利用が可能とされる。

同社は欧州自動車メーカーから回収した使用済みバッテリーを調達し、モジュール単位で検査・選別したうえで蓄電システムとして再構成する。用途は太陽光発電の出力平準化、工場のピーク負荷抑制、電力システムの安定化などを想定する。

2025年4月にはアーヘンのテクノパークに生産拠点「Voltfang Future Fab」を開設した。同工場は

面積6,000平方メートルで、経営破綻したEVメーカーNext e.GOの施設を活用する。生産能力は2年前の年5メガワット時(MWh)から現在は20MWh規模へ拡大しており、2026年には250MWhまで引き上げる計画だ。

さらに同社はエネルギーマネジメントシステムも開発し、顧客の自家消費最適化や電力市場への参加を支援する運用プラットフォーム事業にも展開する。2025年6月にはオランダのベンチャーキャピタル、フォワード・ワン(Forward.One)を主導投資家とする1,500万ユーロの資金調達を実施した。

実証例としては、2026年1月に独アルスドルフのライン炭田地域で容量20MWhの蓄電システムが稼働。エネルギー企業Icecreek Energyが運用し、中電圧配電網に接続して系統調整力を提供している。

フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所(ISE)によると、ドイツでは2030年までに少なくとも100ギガワット時(GWh)の蓄電容量が必要になる見通しだ。McKinseyはセカンドライフ電池がその最大60%を供給できる可能性を指摘するが、使用済みEV電池の供給量は依然として不足している。

(solarify.eu/ 3月10日付)

<https://www.solarify.eu/2026/03/10/aachener-startup-voltfang-macht-e-auto-akkus-zu-industriespeichern/>

独イネラテック、軍事・重要インフラ向け分散型eフューエル設備を披露

グリーンテック新興の独イネラテック(INERATEC)は9日、フランクフルトのヘキスト工業団地で軍需大手ラインメタル(Rheinmetall)とイベントを共催し、軍事や重要インフラ向けに開発した分散型のeフューエル(気候中立の合成燃料)生産設備を公開した。地政学的リスクの高まりを背景に、燃料供給のレジリエンス確保を目的とする。欧州委員会運輸総局(DG MOVE)や北大西洋条約機構(NATO)の代表、欧州議会議員、軍需企業の関係者らが参加した。ティム・ベルテケン最高経営責任者(CEO)は「レジリエントな燃料供給は経済の安定と防衛能力の前提条件だ」と述べた。

イネラテックはカールスルーエ工科大学からのスピノフとして2016年に設立された。航空など輸送分野向けの合成燃料技術を開発しており、2024年6月にはヘキスト工業団地で量産施設「ERA ONE」を稼働させた。年産能力は約2,500トン。

設備はモジュール式で、需要に応じて迅速に拡張できる。ラインメタルはこの柔軟性に着目し、2024年に同社と戦略提携を締結した。軍事作戦では兵士1人当たり1日20~60リットルの燃料が必要とされ、供給途絶は作戦遂行能力に直結する。現地で燃料を生産できる分散型設備は、戦闘継続能力の向上や病院など重要インフラの非常時運用にも寄与する。

イネラテックはこの需要を踏まえ、軍事・重要インフラ向け製品「LIFELINE」を開発した。迅速な設置と既存インフラへの柔軟な統合を可能とし、一部の部品が停止しても生産を継続できる設計を採用した。

同社は現在、モジュール式合成燃料設備を欧州各地に展開する分散型生産構想「Giga-PtX」をラインメタルやクリーンテック企業と推進している。年産4,000~7,000トン規模の設備をネットワーク化し、石油輸入依存の低減や燃料供給の多様化、二酸化炭素(CO2)排出削減を狙う。まずは地域単位でのパイロット事業の実施に向け、欧州の関係機関と協議を進めている。

(プレスリリース 3月10日付)

<https://www.ineratec.de/de/news/europas-kraftstoffsicherheit-im-fokus-ineratec-und-rheinmetall-diskutieren-resiliente>

ボッシュ・レックスロス、川崎重工と次世代建機・水素分野で協業

独ボッシュのエンジニアリング子会社ボッシュ・レックスロス(Bosch Rexroth)は3日、川崎重工業と、建設現場のイノベーションと持続可能性の推進、水素社会実現の加速を目的とした協業覚書(MOU)を締結したと発表した。次世代建設機械と水素ソリューション分野で連携する。

両社は、川崎重工が持つ精密油圧ハードウェアやショベルシステムの技術と、ボッシュ・レックスロスのシステムエンジニアリング能力、電子機器・ソフトウェア技術を組み合わせる。これにより、建設機械の安全性向上や自律運転、機械間のシームレスなデータ交換、低炭素エネルギーへの迅速な移行に対応するインテリジェント建機の開発を進める。

また、水素関連分野でも協力する。水素燃料充填ステーション向け機器の開発やシステム統合で連携し、水素インフラの整備を後押しする。両社は建設機械の高度化と脱炭素化を同時に進めることで、建設分野の持続可能なエネルギー転換を促進する考えだ。

(プレスリリース 3月4日付)

<https://www.boschrexroth.com/de/de/unternehmen/presse/bosch-rexroth-und-kawasaki-zusammenarbeit-naechste-generation-off-highway-maschinen-und-wasserstoffloesungen-37952.html>

アリアンツ GI、トタルエナジーズの独系統用蓄電池事業に出資

アリアンツ・グローバル・インベスターズ(Allianz Global Investors=アリアンツGI)は3日、仏エネルギー大手トタルエナジーズ(TotalEnergies)がドイツで開発する系統用蓄電池事業に資本参加すると発表した。アリアンツが同分野のプロジェクトに出資するのは初めてとなる。

両社は、トタルエナジーズがドイツで開発を進める11件の蓄電プロジェクトを対象に、折半出資の合弁会社を設立する。投資総額は約5億ユーロで、このうち約70%を外部資本で調達する計画だ。

対象となる11件のプロジェクトは、合計の定格出力が789メガワット(MW)、定格容量が1,628メガワット時(MWh)に達する。いずれも2028年までの稼働開始を予定している。

設備の運営はトタルエナジーズが担い、系統安定化や再生可能エネルギーの導入拡大を支える電力貯蔵インフラとして活用する方針だ。

(プレスリリース 3月4日付)

<https://de.allianzgi.com/de-de/pro/ueber-uns/presse/20260303-allianzgi-geht-partnerschaft-mit-totalenergies>

金属ガラス 3D プリントでモーター損失低減、独ザールラント大学が研究

独ザールラント大学は、3Dプリントで製造する「金属ガラス(アモルファス金属)」を用いた電動モーター部材の研究を進めている。従来の軟磁性鉄合金に代えてアモルファス合金を採用することで、磁化反転時に発生するヒステリシス損失(鉄損)を大幅に低減し、モーター効率の向上につなげる狙いだ。とくにドローンや電動自転車、携帯型電子機器などの小型・高速モーターでは磁化反転の頻度が高く、材料由来のエネルギー損失が効率や航続距離を制約する要因となる。

研究チームは、結晶構造を持たない金属ガラスの磁気特性に着目した。結晶粒界が存在しないため磁区が移動しやすく、磁化反転時のエネルギー損失を抑制できるという。さらに、コバルトなどの重要元素を用いない合金設計も可能としている。

材料開発と並行して、レーザーパウダーベッドフュージョン(LPBF)による造形条件の最適化にも取り組む。LPBFは微細な金属粉末をレーザーで溶融し、約50マイクロメートルの層を積層して部品を造形する積層造形(AM)技術で、粉末材料の特性が性能を左右する。研究では数百種類の合金組成を検討し、結晶化を抑えつつ3Dプリントに適した材料候補を選定した。急速凝固の過程でもアモルファス構造を維持できる材料設計が鍵となる。

同研究はEU支援プロジェクト「AM2SoftMag」の一環として実施されており、ドイツ、スペイン、イタリア、ポーランドの研究機関が参加する。軟磁性材料向けの新たなAM用金属粉末の需要創出につながる可能性もあり、金属粉末業界にとっても注目される分野となりそうだ。

(3druck.com 3月12日付)

<https://3druck.com/forschung/metallisches-glas-aus-dem-3d-druck-soll-elektromotoren-effizienter-machen-06154791/>

独ボッシュ、AI 検索技術の新興 Qdrant に出資

IoT大手の独ボッシュ (Bosch)は12日、次世代検索エンジンを開発する独スタートアップのクドラント(Qdrant)に出資すると発表した。人工知能(AI)の活用が実証段階から実務運用へ移行する中、関連データへ迅速かつ正確にアクセスする重要性が高まっていることを踏まえ、同社の技術力を評価した。クドラントが実施する5,000万ドル規模のシリーズB資金調達に参加する。

クドラントはベルリンに拠点を置く2021年設立の企業で、ベクトル検索エンジンを開発している。単語や画像、動画の意味を数値ベクトルとして表現し、類似度計算によって検索を行う仕組みで、従来のキーワード一致型検索と異なり、曖昧な語句や類似画像から検索意図を推定できる。

同社の技術は、大規模で複雑なデータセットをリアルタイムで検索できる点が特徴だ。顧客にはバイエル、ドイツテレコム、ボッシュなどの大手企業が名を連ねる。

ボッシュのベンチャーキャピタル部門ボッシュ・ベンチャーズ(Bosch Ventures)のインゴ・ラーメゾール社長は「オープンソース言語Rustを基盤とするクドラントの先進的なアーキテクチャーは、信頼性の高い次世代AIシステムを支えるディープテック革新の好例だ」と評価した。

(プレスリリース 3月12日付)

<https://www.bosch-presse.de/pressportal/de/de/bosch-ventures-beteiligt-sich-an-50-millionen-dollar-runde-von-qdrant-fuer-die-naechste-generation-skalierbarer-ki-infrastruktur-281356.html>

グーグル、ベルリンに AI センター開設 独の AI 活用を支援

米IT大手グーグル(Google)は5日、ドイツ・ベルリンに「グーグルAIセンター」を開設した。人工知能(AI)分野の議論や協業、技術革新を促進する拠点と位置づけ、企業や行政、研究機関によるAI活用を支援する。

同社は2025年11月、2029年までにドイツへ総額55億ユーロを投資する計画を発表しており、今回のセンター開設はその一環となる。AI研究部門「グーグル・ディープマインド(Google DeepMind)」、先端研究部門「グーグル・リサーチ(Google Research)」、クラウド部門「グーグル・クラウド(Google Cloud)」の研究者や技術者が参加し、共同プロジェクトを進める。

すでに複数の取り組みが始まっている。ベルリン州の「シティLABベルリン」プロジェクトでは、高齢者向け基礎社会保障の申請手続きをAI対話で簡素化する仕組みを開発する。ドイツの他自治体でも活用できるよう、オープンソースソフトウェア(OSS)ベースで構築する計画だ。

またミュンヘン工科大学と連携し、医療分野での生成AI利用の安全性を高める「NextGen Health GenAI Benchmark」や、単一細胞解析を対象としたAI基礎モデルを開発する「Single-Cell Foundation Model」などの研究も進める。がん診断や治療開発の加速が期待される。

グーグルの委託でIWドイツ経済研究所が実施した調査によると、生成AIの本格活用により、ドイツの国内総生産(GDP)は2034年までに年間約4,400億ユーロ拡大する可能性があるという。AIは企業と国家の競争力を左右する重要技術として位置づけられている。

(プレスリリース 3月4日付)

<https://blog.google/intl/de-de/unternehmen/inside-google/google-ai-center-berlin-eroeffnung/>

シーメンス、独にスマートインフラ新工場 AI 工場で自動化強化

シーメンス(Siemens)は、ドイツ国内の生産・開発拠点にスマートインフラ部門の新工場を建設すると発表した。ハイテク製品の需要拡大に対応するとともに、生産の柔軟性を高める。ローラント・ブッシュ社長は「産業用人工知能(AI)、デジタルツイン、最新の自動化技術を投入することで競争力を高め、将来の雇用創出にもつなげる。強力な産業国ドイツへの貢献でもある」と述べた。

同社は約2億ユーロを投じて新工場を建設する。設計段階では複数のデジタルツインを統合管理する「デジタルツイン・コンポーザー」を活用し、生産設備や機械、物流を含む工場全体のシミュレーションを行う。

2030年までの完成を予定する新工場では、AIがリアルタイムデータに基づき発注計画や材料搬送、機械制御を自動調整・最適化する。無人搬送システムや人型ロボットを導入し、工場内物流の高度自動化も進める。これにより市場の変化や新たな需要にも迅速に対応できる体制を整える。

AI主導型の生産体制に対応するため、従業員約2,400人を対象に再教育プログラムも実施する。シーメンスは、ドイツ経済の再活性化を目的に企業が共同で推進する投資イニシアチブ「Made for Germany」の枠組みのもと、国内投資を拡大しており、今回の新工場もその一環となる。

(プレスリリース 3月4日付)

<https://www.siemens.com/de-de/company/global-locations/germany/amberg-production-development/>

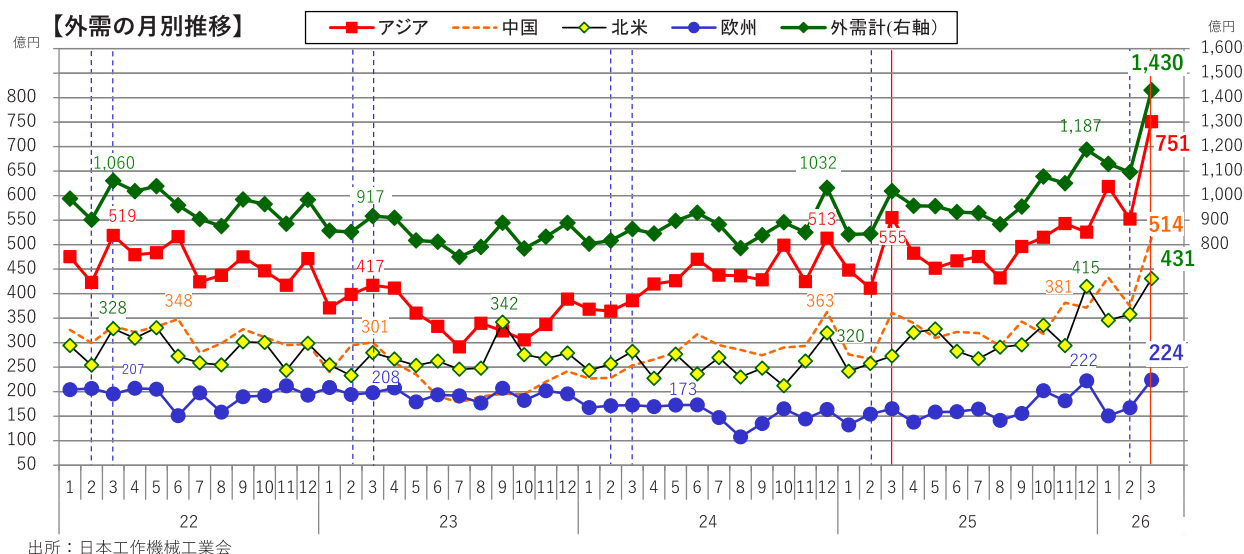
6. 日工会外需状況（3月）

外需【3月分】

1,430.0億円（前月比 + 30.5% 前年同月比 + 40.4%）

外需額

- ・前月比は3カ月ぶり増加も、前年同月比では18カ月連続の増加、過去最高額の受注。
- ・外需は、国際情勢の不透明感が払拭されない中、欧米の投資喚起政策の効果と、アジアで投資が持続し、増勢は続いている。



外需【3月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、歴代最高の750億円超えとなった
(2026年1月の618.5億円を更新)

- 東アジアは、5カ月連続400億円超え、過去最高の562億円（2026年1月の494.9億円を更新）
- 中国は、5カ月連続350億円超え、過去最高の513.5億円（2026年1月の433億円を更新）
- その他アジアは11カ月連続の100億円超え
- インドは初めて100億円を超え、歴代最高の116.6億円（2025年3月の98.2億円を更新）

②欧州

欧州計は、3カ月ぶりの200億円超え

- ドイツは、3カ月ぶりの40億円超え
- イタリアは、10カ月ぶりに30億円を超え

③北米

北米計は、歴代最高の430.6億円
(2025年12月の414.6億円を更新)

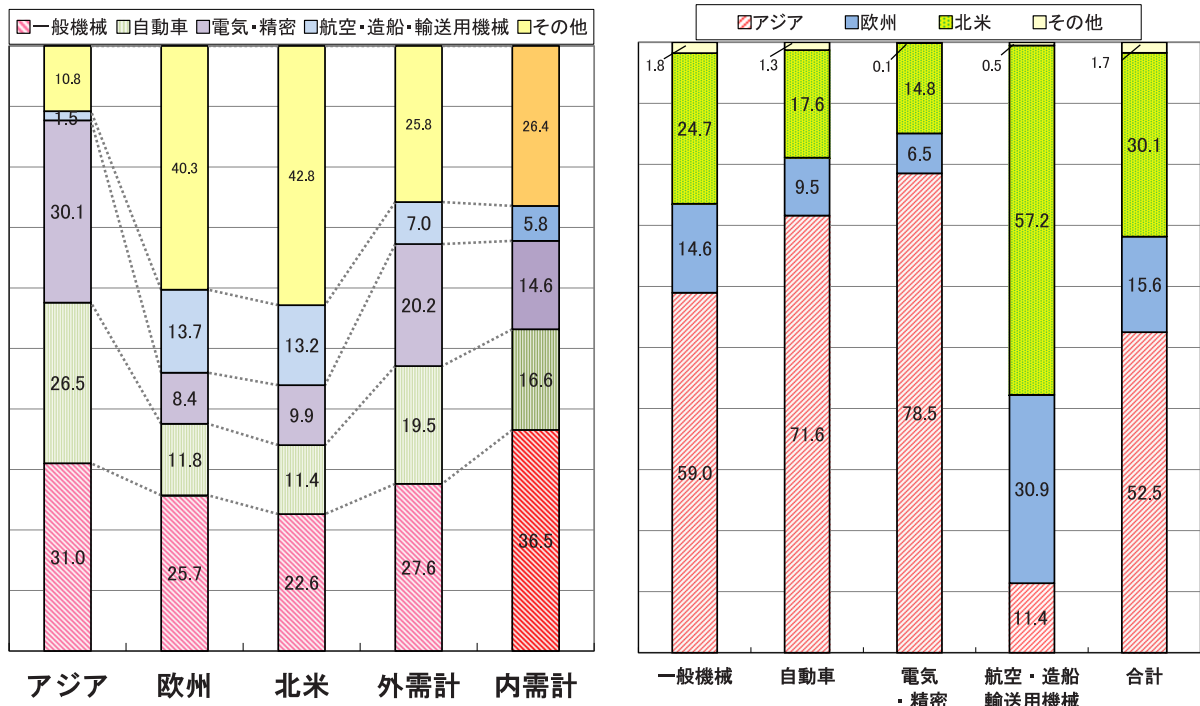
- アメリカは、歴代最高の受注額（2025年12月の345.8億円を更新）
- メキシコは、2カ月ぶりの20億円割れ

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	750.9	+36.0 2カ月ぶり増加	+35.3 7カ月連続増加
東アジア	562.1	+32.7 2カ月ぶり増加	+37.6 7カ月連続増加
韓国	26.6	△11.4 3カ月ぶり減少	+2.6 2カ月ぶり増加
中国	513.5	+37.1 2カ月ぶり増加	+42.3 24カ月連続増加
その他アジア	188.8	+47.0 4カ月連続増加	+28.9 2カ月連続増加
インド	116.6	+48.1 2カ月連続増加	+18.8 2カ月連続増加
欧州	223.8	+33.9 2カ月連続増加	+35.4 9カ月連続増加
ドイツ	42.9	+8.7 2カ月連続増加	+23.2 8カ月連続増加
イタリア	35.0	+61.1 2カ月ぶり増加	+27.7 9カ月連続増加
北米	430.6	+20.4 2カ月連続増加	+57.9 8カ月連続増加
アメリカ	392.7	+25.8 2カ月連続増加	+58.9 14カ月連続増加
メキシコ	15.4	△27.7 2カ月ぶり減少	△22.3 7カ月ぶり減少

出所：日本工作機械工業会

外需【3月分】

主要3極別・業種別受注構成

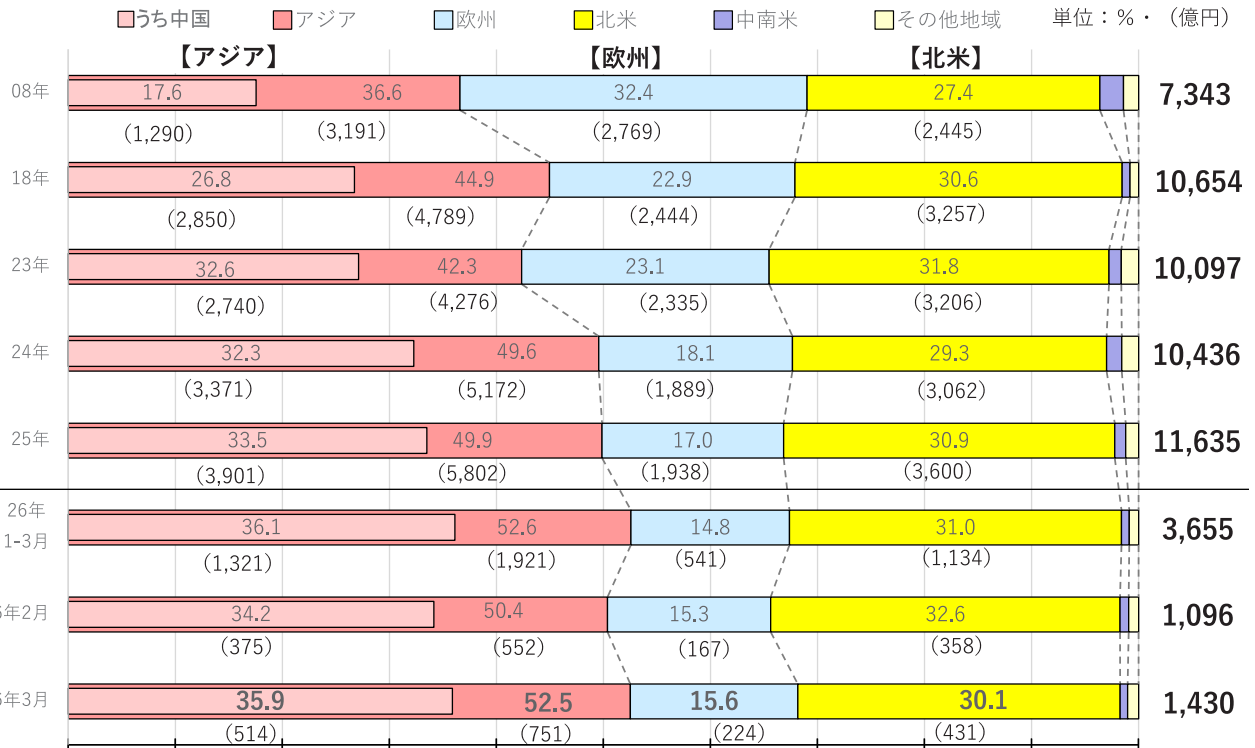


出所：日本工作機械工業会

出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

4カ月連続北米比率が30%超え。



出所：日本工作機械工業会

第4回 Bharat Mobility 2027 & インド自動車ビジネス進出セミナー

インド自動車産業 ～市場展望と進出方法～

2026年 **5月11日（月）** 午後 2:00～5:00

⚡ インド自動車部品工業会（ACMA）来日！

世界第3位の自動車市場へと成長したインド。
自動車産業と工作機械産業は密接に結びついており、
この成長は幅広い製造業にとっての好機でもあります。
本セミナーでは、インド市場の最新動向や進出に役立つ情報を、
各分野の専門機関よりご紹介いたします。

日時	2026年5月11日（月）午後 2:00～5:00（予定）
会場	銀座プロッサム（中央会館）「マーガレット」 〒104-0061 東京都中央区銀座 2-15-6
形式	会場開催+オンライン配信（ハイブリッド）
参加費	無料
定員	限定 200名（お申込が多い場合は1社2名様まで）
申込期日	第1回：4月17日（金）／第2回：4月30日（木）

主催・後援

主催	インド自動車部品工業会（ACMA）
後援	日本自動車部品工業会（JAPIA）
協力	NPO 法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）
特別協力	株式会社フォーイン / S&P Global Mobility / 日印半導体コミッティ（JISC）
メディア	日刊工業新聞社（予定）
運営事務局	日印コンサルティング株式会社（JIC）

セミナープログラム（見どころ） ※講演内容は変更になる可能性があります。

1 ACMA
Bharat Mobility 2027 & インド自動車産業展望
インド最大級モビリティ展示会の概要と自動車産業の成長戦略。

2 JETRO
インドにおける日本企業の進出支援
インド市場の最新動向と日本企業向け支援情報。

3 JAPIA
インド市場に向けた JAPIA の取り組み
2025 年インド視察団の成果と実践レポート。

4 フォーイン
インド自動車市場分析
現状の市場分析と日本企業にとってのビジネスチャンス。

5 S&P Global Mobility
インド市場の中長期未来予測
グローバル視点でのインド自動車市場中長期予測。

6 JISC
インド半導体産業と自動車
急成長するインド半導体産業と自動車への影響。

▶ セミナーお申込み

右記二次元コードからお申し込みください。

参加費無料・限定 200 名



お問い合わせ先

インド自動車ビジネス進出セミナー事務局
NPO 法人 日印ビジネスビューロー / 日印コンサルティング株式会社
担当：安井・橋倉

E-mail: trade@ji-consulting.jp

TEL: 090-9325-3456 (安井) / 080-6516-4331 (橋倉)